「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第６次
高浜市総合計画の総括

〔平成２３年度～令和４年度〕

令和５年１２月
高　浜　市

第６次高浜市総合計画〔平成２３年度～令和４年度〕の総括
目　次

１．はじめに

（１）第６次総合計画の総括にあたって　・・・・・　２ページ

（２）総括の体制　・・・・・　３ページ

２．後期基本計画の総括

（１）個別目標ごとの総括

Ⅰ．みんなで考え　みんなで汗かき　みんなのまちを創ろう

目標(1)　まちを愛する想いが育まれ、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります　・・・・・　６ページ

目標(2)　将来を見据えた健全な財政運営を行います　・・・・・　７ページ

Ⅱ．学び合い　力を合わせて　豊かな未来を育もう

目標(3)　学校・家庭・地域が連携を深め、１２年間の学びや育ちをつなげます　・・・・・１０ページ

目標(4)　子育ち・子育てを支える環境を整えます　・・・・・１２ページ

目標(5)　学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます・・・・・１６ページ

Ⅲ．明日を生み出すエネルギー　やる気を活かせるまちをつくろう

目標(6)　産業を活性化して、まちを元気にします　・・・・１８ページ

目標(7)　みんなでまちをきれいにします　・・・・２２ページ

目標(8)　自然と都市機能が調和した都市空間をつくります　・・・・２４ページ

目標(9)　安全・安心が実感できるまちづくりを進めます　・・・・２６ページ

Ⅳ．いつも笑顔で健やかに　つながり 100 倍ひろげよう

目標(10)　一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます　・・・・２８ページ

目標(11)　一人ひとりの元気と健康づくりを応援します　・・・・３０ページ

（２）市民意識調査及び「みんなで目指すまちづくり指標」（後期基本計画詳細）の結果　・・・・３２ページ

３．第６次総合計画の全体総括

（１）目指す姿（将来都市像と基本目標）　・・・・３７ページ

（２）市民意識調査及び「みんなで目指すまちづくり指標」の結果　・・・・３７ページ

（３）将来都市像に対する評価　・・・・４０ページ

・高浜市長　吉岡初浩

・第６次総合計画推進会議　中川幾郎　会長

（４）１２年間の市民意識調査結果の分析、課題と第７次総合計画の関連性　・４１ページ

４．おわりに

総合計画の進行管理体制　・・・・４６ページ

1

はじめに

1. 第 6 次総合計画の総括にあたって

高浜市では、平成 23 年 4 月から「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を将来都市像とする「第 6 次高浜市総合計画」がスタートしました。

「前期基本計画（計画期間：平成 23 年度～25 年度）」では、将来都市像の実現に向けて 14 の個別目標（施策）と 66 本の「こんなことに取り組みます」、「中期基本計画（計画期間：平成 26 年度～29 年度）」では、11 の目標と 44 本の取り組み、「後期基本計画（計画期間：平成 30 年度～令和 4 年度）」では、11 の目標と 35 本の取り組みを掲げ、市民・地域・事業者・関係機関等と力を合わせて、目標達成に向けた取組みを進めてきました。

また、計画の進行管理にあたっては、毎年度の内部評価とともに外部評価として「第 6 次高浜市総合計画推進会議」のチェックの基、目標達成状況の点検・確認（施策評価）を実施し、PDCA サイクルを回してきました。

第 6 次総合計画の計画期間満了に伴い、目標達成状況をとりまとめ、評価するため「第 6 次総合計画の総括」を行いました。

2. 総括の体制

基本目標Ⅰ　みんなで考え　みんなで汗かき　みんなのまちを創ろう

関連分野	期間	個別目標	担当グループ（G）
協働推進	前期	◆ 市民とともに歩む経営を行います ◆ 市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います	総合政策G 秘書人事G
	中期	◆ まちへの思いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	
	後期	◆ まちへの思いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	
財政運営	前期	◆ 次世代のために、健全な財政運営を行います	財務G ＩＣＴ推進G 学校経営G
	中期	◆ 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	
	後期	◆ 将来を見据えた健全な財政運営を行います	

基本目標Ⅱ　学び合い　力を合わせて　豊かな未来を育もう

関連分野	期間	個別目標	担当グループ（G）
生涯学習・文化・スポーツ	前期	◆ 学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます	文化スポーツG
	中期	◆ 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	
	後期	◆ 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	
学校教育	前期	◆ 心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります	学校経営G
	中期	◆ 学校・家庭・地域が連携を深め、１２年間の学びや育ちをつなげます	
	後期	◆ 学校・家庭・地域が連携を深め、１２年間の学びや育ちをつなげます	
子育ち・子育て	前期	◆ 人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます	こども育成G
	中期	◆ 地域ぐるみで子育ち・子育てを支えます	
	後期	◆ 子育ち・子育てを支える環境を整えます	

基本目標Ⅲ　明日を生み出すエネルギーやる気を活かせるまちをつくろう

関連分野	期間	個別目標	担当グループ（G）
産業	前期	◆ まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします ◆ 地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます	経済環境G 都市計画G
	中期	◆ 産業を活性化して、まちを元気にします	

	後期	◆　産業を活性化して、まちを元気にします	
環境	前期	◆　みんなでまちをきれいにします	経済環境G
	中期	◆　みんなでまちをきれいにします	
	後期	◆　みんなでまちをきれいにします	
都市基盤	前期	◆　ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります ◆　自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます	土木G 上下水道G 都市計画G
	中期	◆　ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	
	後期	◆　自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	
防災防犯	前期	◆　安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます	防災防犯G
	中期	◆　安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	
	後期	◆　安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	

基本目標Ⅳ　いつも笑顔で健やかに　つながり 100 倍ひろげよう

関連分野	期間	個別目標	担当グループ（G）
福祉	前期	◆　一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	地域福祉G 介護障がいG 福祉まるごと相談G 健康推進G
	中期	◆　一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	
	後期	◆　一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	
健康	前期	◆　一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	健康推進G 福祉まるごと相談G
	中期	◆　一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	
	後期	◆　一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	

2

後期基本計画の総括

目標（1）

まちを愛する想いが育まれ、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります

▲市制施行 50 周年事業を企画した市民会議 50

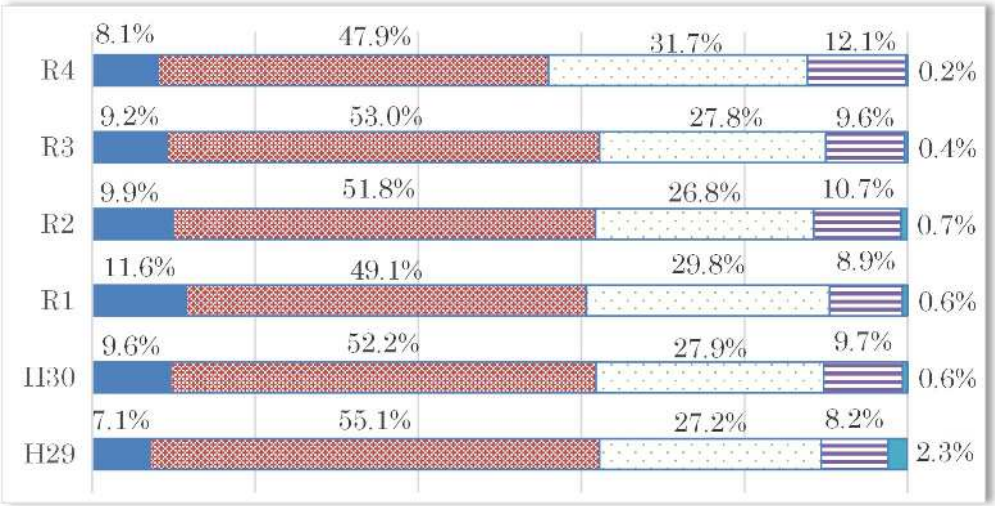
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	◎　まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。 ◎　市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。 ◎　職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。

2．市民意識調査結果

【設問】まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う

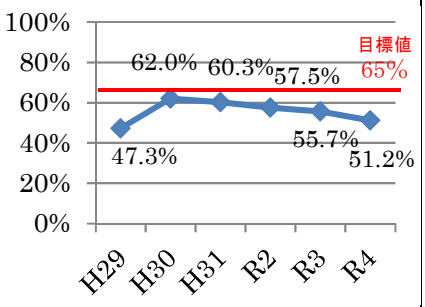


とても思う＋どちらかといえばそう思う（%）

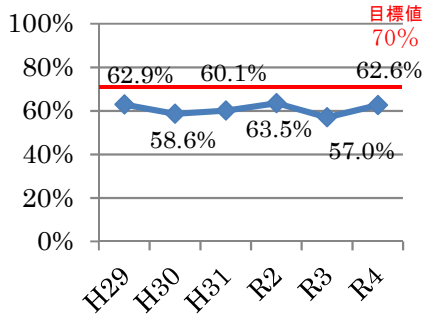
R4	56.0%
R3	62.3%
R2	61.7%
R1	60.6%
H30	61.8%
H29	62.2%

3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

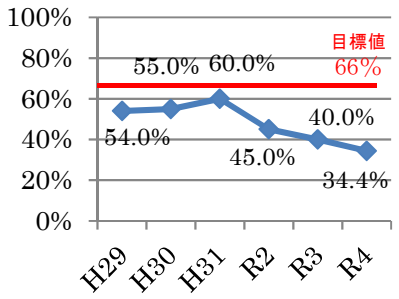
1）市の情報発信に満足している人の割合



2）地域活動に参加したことがある人の割合



3）市民と一緒になって地域活動に取り組んでいる職員の割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。【総合政策グループ】
◆　高浜市市民記者制度を制定した。（H30） ◆　高浜市広報戦略を策定した。（H30） ◆　若者会議を６回開催し、50 周年記念事業について一緒に考えた。（H31） ◆　市公式ホームページ内に、新型コロナウイルス感染症に関する専用ページ（サブサイト）を構築しスピーディーな情報発信に努めた。（R2） ◆　市公式 LINE を開設した。（R3） ◆　まちづくり協議会と連携しスマホ教室を開催した。（R4）
（２）市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。【総合政策グループ】
◆　各まち協に特派員を派遣した。（H30～R4） ◆　たかはま未来カフェを開催し、市民と 10 年先の高浜市の理想の姿と、それを実現する方法を話し合った。（H30） ◆　のびゆく高浜編集委員会と話し合いを重ね、『のびゆく高浜』のなかに自治基本条例およびまちづくりに関するページを作成した。（H31） ◆　第７次総合計画の策定にかかる「高浜市の未来を描く市民会議」を開催し、高浜市の 10 年後の未来について検討した。（R3～R４）
（３）職員のワークバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。【秘書人事グループ】
◆　行政の合理化・効率化・明確化を推進するために組織体制の見直しを実施した。（H30） ◆　市政 50 周年記念事業職員プロジェクトを設置し若手・中堅職員実践研修として活動した。（H30） ◆　若手職員を対象に業務改善研修を実施した。（H31） ◆　管理職を対象にコロナ禍に対応した働き方や具体的な働き方改革の手法を学ぶ「働き方改革研修」を実施した。（R2） ◆　コロナ禍に対応するため、時差出勤や在宅勤務（テレワーク）を導入した。（R2） ◆　職員成長支援計画（研修計画）を更新した。（R3）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	【総合政策グループ】 「市の情報発信に満足している人の割合」は、目標値に届かず H30 年度をピークに低下した。情報発信に対する職員研修や、市公式ホームページのリニューアル、市公式 LINE の開設など、職員の意識向上と発信媒体の増強に取り組んできたが数値の結果として現れなかった。目標達成ができなかった大きな要因としては 30・40 歳代における満足度の低下が大きいため、市民（特に 30・40 歳代）が必要としている情報をリアルタイムに届ける仕組みが必要と考える。 「地域活動に参加したことがある人の割合」は、目標値に届かず計画期間中横ばいとなった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも数値を維持してきたことは、市民の６割程度には地域活動が定着してきていると評価できる。地域活動の参加については 40 歳代以上で 65%の数値となっているが、20・30 歳代で約 40%と低くなっている。将来を見据え、若い世代が無理のない範囲で地域活動に参加していけるような風土の醸成が必要と考える。 【秘書人事グループ】 「市民と一緒になって地域活動に取り組んでいる職員の割合」は、令和元年度をピークに低下した。新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動が縮小又は中止となる中、地域活動に参加した職員が一定数いたことは評価できる。

目標（2）

将来を見据えた健全な財政運営を行います

▲公共施設を複合化した高浜小学校等

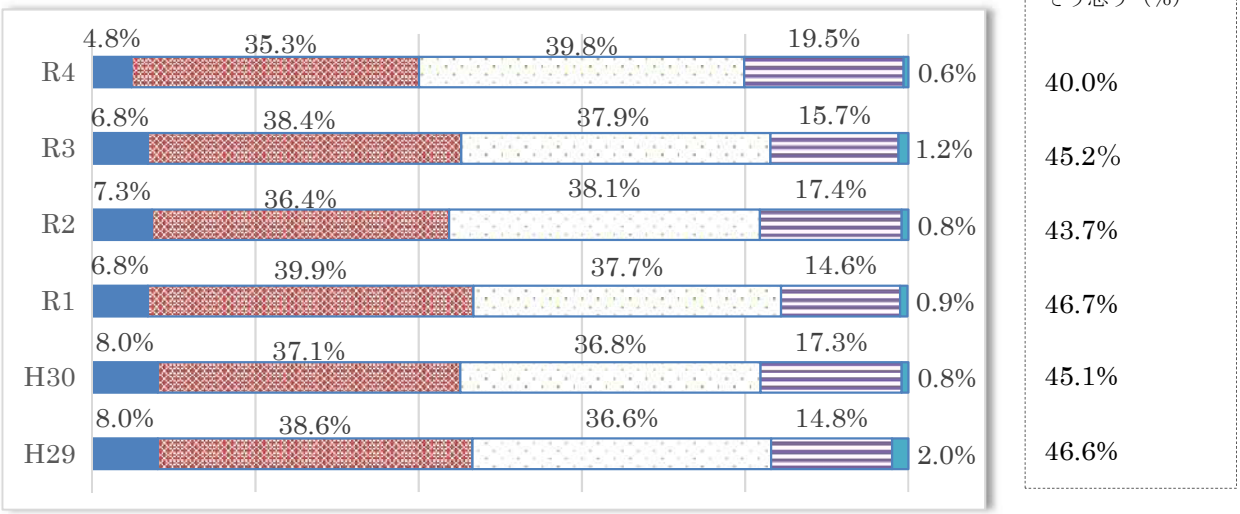
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	今後の財政見通しでは、公共施設の老朽化に係る財政負担、少子高齢化の進展に伴う社会保障関連経費の増加が見込まれ、市の財政運営に大きな影響を及ぼすことが予想されます。そこで、財政運営に関する情報等を市民と共有するとともに、“入るを量りて、出ずるを制す”の考え方にも留意し、歳入・歳出の両面から財政基盤の強化に取り組むことが欠かせません。
目標が達成された姿	◎　市の財政運営に対する理解が深まっています。 ◎　市税などの財源が確保されるとともに、事業の見直しと重点化により誠に必要な事業が実施され、少子高齢化に見合った持続可能な財政運営が行われています。 ◎　機能複合化による公共施設の再編、改修による長寿命化等の取組みが市民に理解され、公共施設総合管理計画が着実に推進されています。

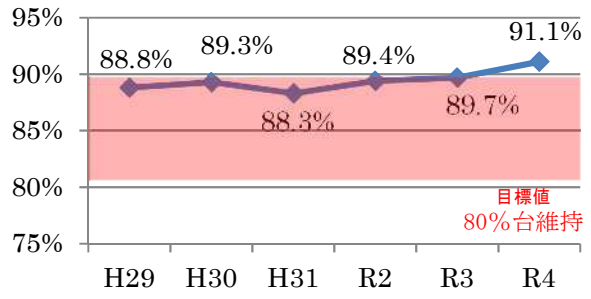
2．市民意識調査結果

【設問】将来を見据えた財政運営を行っているまちだと思う

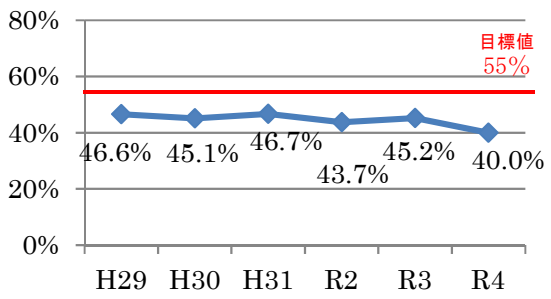


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1）経常収支比率



2）将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知りたい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。【財務グループ】
◆　「財政情報発信計画」を策定した。（H30） ◆　財政出前授業を開催した。（H31） ◆　新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった「出前授業」に代え、「わかりやすい財政」の動画を作成し、小学校の社会科授業で活用した。（R2） ◆　オンラインも活用し財政出前授業を開催した。あわせてアンケート調査を行い、その質問に答える「財政だより」を作成した。出前授業の内容とともに公表し LINE を使って情報発信した。（R3） ◆　小学生向けに対面での財政出前授業を実施し、引き続き財政だよりの発行、HP、LINE 等を活用した情報発信を行った。（R4）
（２）工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。【財務グループ】【ＩＣＴ推進グループ】
◆　使用料・手数料条例を改定した。（H31） ◆　ペーパーレス会議システムを導入した。（R１） ◆　通訳サービスについて、iPad を活用した通訳システムを市役所及びいきいき広場の窓口用として６台配備した。（R2） ◆　人工知能等の活用として、AI－OCR、AI チャットボットシステムを県内市町村で共同研究・共同調達した。また RPA を活用した財務会計システムの構築を行った。（R2） ◆　使用料・手数料条例改定に向けて施設別行政コスト計算書を作成した。（R3） ◆　市民が来庁しなくても手続等ができるよう、電子申請の拡大などを目的に庁内プロジェクトを設置し検討を行った。（R3・R4） ◆　高浜市 LINE 公式アカウントと高浜市あいち電子申請・届出システムを連携させ、利便性の向上を図った。（R4） ◆　行政コスト計算書をもとに施設の受益者負担について分析を行った。（R4）
（３）公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。【財務グループ】【学校経営Ｇ】
◆　「公共施設総合管理計画」を公表した。（H30） ◆　公共施設推進プランスケジュール、公共施設・インフラ施設推進プランを作成・公表した。（H30～R３） ◆　小中学校の大規模改修や中規模修繕の時期や内容について、中長期的な視点で実施計画の検討を行い、長寿命化計画を策定した。（R2） ◆　高取・吉浜・港小学校の長寿命化改良事業の設計を行い（H31～R3）、R4 年度から、高取小学校長寿命化改良工事に着手した。 ◆　「公共施設総合管理計画」を改定した。（R4） ◆　公共施設推進プランスケジュール、公共施設・インフラ施設推進プランを更新した。（R4）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	【財務グループ】 人件費、扶助費等の経常的な経費の増加に伴い、経常収支比率が 91.1％と目標値の 80％台を超える結果となった。また、将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合は、10 代が昨年より 23％増の 56.3％と大幅に増加したが、30 代、40 代、60 代が大きく減少しており、全体として 40.0％に留まった。今後さらなる経常経費の削減に努めるとともに、財政出前授業の内容を各家庭で知ってもらう機会を設けるなど、財政情報の発信に工夫が必要である。

目標（3）

学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

▲いちにちブックカフェ

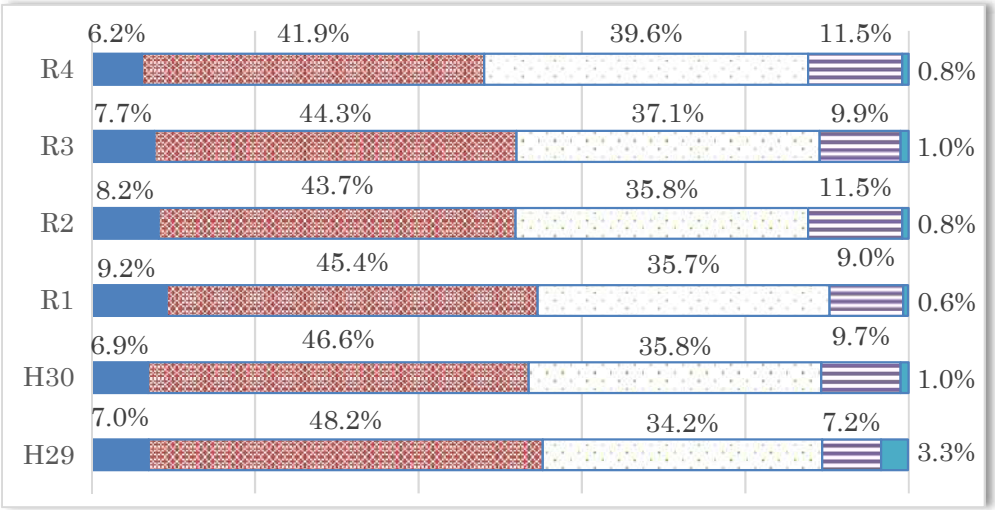
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	学び・文化・スポーツは、人づくりやまちづくりの土台となるものです。市民・地域・関係機関・事業者と連携し、学びなどを通して市民同士が個々の力を高め合うとともに、つながりを深めながら「高浜市が好き」「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といったまちづくりの原動力を育んでいきます。
目標が達成された姿	◎　個人が培ってきた知恵・特技・体験などが、人づくりやまちづくりに活かされ、子ども・若者や大人がともに成長しています。 ◎　学び・文化・スポーツ活動を通して市民同士の交流が深まり、「高浜市が好き」「市民や地域のために何かやってみたい」という市民が増えています。 ◎　先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民共有の財産として継承され、まちづくりに活かされています。

2．市民意識調査結果

【設問】学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人とがつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う

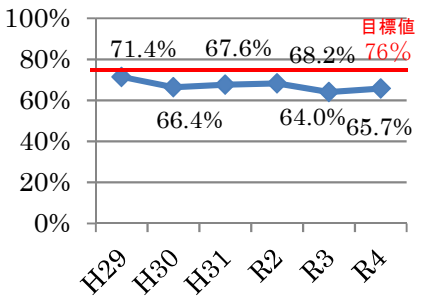


とても思う＋どちらかといえばそう思う（%）

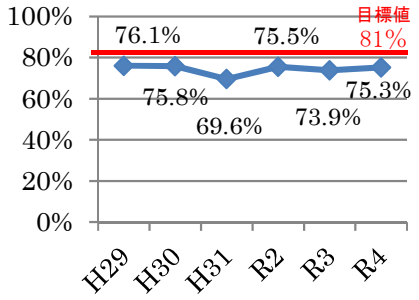
R4	48.0%
R3	52.0%
R2	51.9%
R1	54.6%
H30	53.4%
H29	55.2%

3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

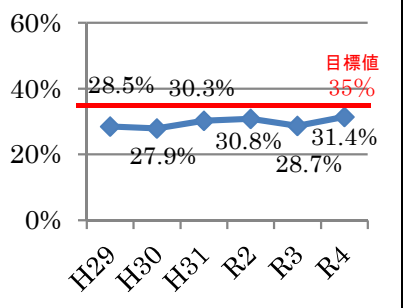
1）高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合



2）将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合



3）持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。【文化スポーツグループ】
◆　部会に分かれ、市内外での資料調査・聞き取りを進め、『高浜市のあゆみ』を発刊した。（H30～R３） ◆　「たかはま歴史・まちづくりシンポジウム」を開催した。（H30～R3） ◆　広報たかはまで「市誌編さんだより」、「たかはまアーカイブ」を連載し、編さんの進捗や成果のアウトプットに努めた。（H30～R4） ◆　「市誌を読む会」を開催した。（R3～R４） ◆　市誌編さんによって蓄積したデータを活用した「ミニ展示」を開催した。（R2～R4） ◆　「たかはま歴史散歩」を開催し、『高浜市のあゆみ』掲載内容にゆかりのある場所を実際に巡った。（R4）
（２）市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。【文化スポーツグループ】
◆　「図書館のあり方を考える会」、「図書館フォーラム」を開催し、高浜市が目指す図書館の今後の方向性について市民と意見交換し共有した。（H31～R３） ◆　広報たかはま「これからの図書館カタチ・チカラ」と題した連載を組んで市民周知を図った。（R2～R3） ◆　図書館機能を様々な活動と交じり合う相乗効果が期待できる「いきいき広場」「かわら美術館」へ機能移転する方針を決定した。（R3） ◆　図書館、美術館にて市民の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援する企画やワークショップを随時開催した。（H30～R３） ◆　第３次高浜市生涯学習基本構想を策定した。（R4） ◆　図書館機能の移転を控え、新たな図書空間の「イメージ」や「期待するもの」を語り合う「いちにちブックカフェ」や、美術館敷地での「あおぞら図書館」の開催など気運を高める取り組みを行った。（R4）
（３）「いつでも・だれでも・どこでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。【文化スポーツグループ】
◆　スポーツ推進委員を中心に、ファミリーバドミントン、ノルディックウォーキングの講習会を実施した。また、社会福祉協議会と連携し、ボッチャの普及に努めた。（H30） ◆　勤労青少年ホーム跡地活用事業について、民間事業者がプール・スポーツジム施設運営のスタート及びテニスコート施設の供用を開始した。（H31） ◆　高浜小学校のメインアリーナ、サブアリーナの一般利用開始に向け、内覧会を行った。また、高浜小学校及び運営事業者と協議を行い、運営方法を決定した。（R2） ◆　体育センターの機能移転が円滑に進むよう、定期利用者への周知や幅広く市民へ周知するため、ホームページなどを通じて周知を図った。（R2） ◆　パラリンピック聖火フェスティバルを実施した。スポーツへの関心を高める取組みとして、地域交流施設たかぴあ（エントランスホール）において、東京オリンピック・パラリンピック特集展示を行い、聖火リレーに参加した市民や、高浜市出身の出場者の活躍ぶりなどを広く紹介した。（R3） ◆　高浜小学校との複合施設である地域交流施設たかぴあが、全面供用開始した。（R３） ◆　公共施設総合管理計画に基づき体育センターの解体を工事業者と協議を行い、実施した。また、解体後、一部駐車場の整備を実施した。（R3） ◆　港小学校の６年生を対象にして、ボート体験の授業を実施した。(R4)

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	後期の計画期間内においては、数値がほぼ横ばいとなっているが、R3 から R4 にかけてはどの指標もすべて上昇傾向がみられる。R3 の『高浜市のあゆみ』発刊、地域交流施設たかぴあの全面供用開始、そして R4 に準備をし R5 に行われる図書館機能の移転と、市民の生涯学習活動を支えるツールや場の整備が徐々に進んでいるため、第７次総合計画に向けて前向きな結果が出ていると考えている。

目標（4）

学校・家庭・地域が連携を深め、12 年間の学びや育ちをつなげます

▲タブレットを利用した授業風景

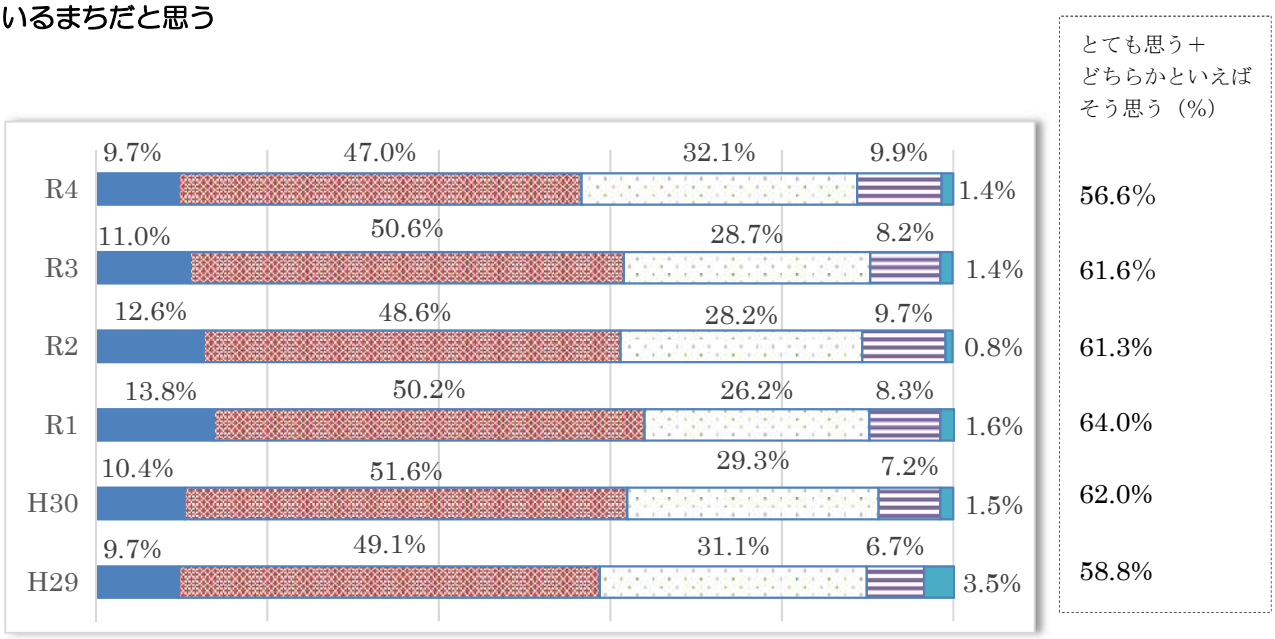
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	学校、家庭、地域が「子どもの学びや育ちをつなげる」という意識をもち、力を合わせます。
目標が達成された姿	◎　子どもが、自分の成長に気づいたり、目標を抱いたりしています。 ◎　子どもが、地域に関心をもち、自分ができることを考え、実践しています。 ◎　子どもが、主体的・対話的で深い学びをしています。 ◎　子どもが、個に応じた教育を受け、個性を伸長させています。

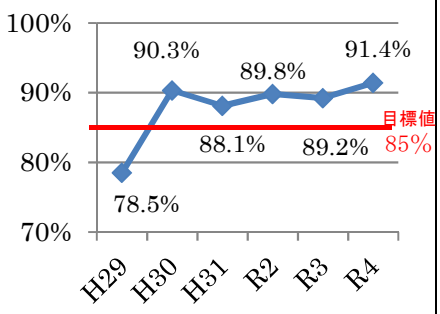
2．市民意識調査結果

【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの 12 年間（4 歳～15 歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う

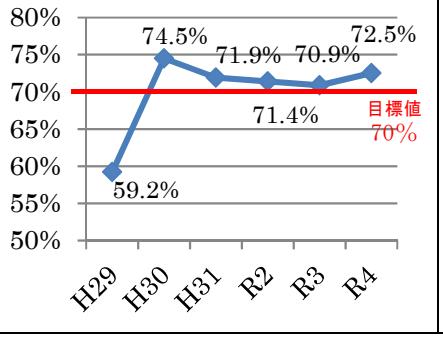


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

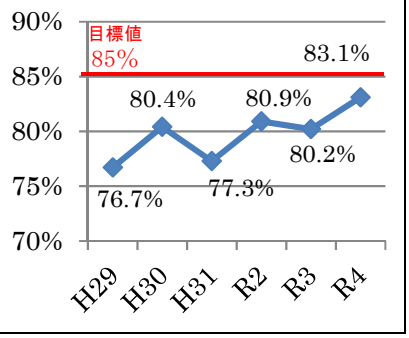
1）自分や周りのよさを認める子どもの割合



2）地域や社会に関心をもつ子どもの割合



3）学習が将来、役立つと感じている子どもの割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。【学校経営グループ】

- ◆ 上級校への円滑な接続の実現を目指して、異校種間での取組（生活科の授業に園児を招待する活動など）をより充実したものとなるよう見直し、実践できた。（H30～H31）
- ◆ 異年齢交流や異学年交流も積極的に実施した。（R4）
- ◆ これまで参観できていない異校種の教員が異校種参観を実施した。（H30～R2）
- ◆ 異校種への参観がしやすい環境をつくり、希望者を中心に異校種参観を実施した。（R3～R4）
- ◆ 異校種間連携推進委員会において、連携して実践できるより主体的な取組について検討した。（H31～R4）

（２）高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。
（３）高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ＩＣＴを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。【学校経営グループ】

- ◆ 「高浜カリキュラム」「高浜カリキュラム教科版」を各校で実践し、指導案を集約し、個々の教員の実践に生かすことができるようにした。（H30～R4）
- ◆ 市内に通う３歳児以上の園児、小学生、中学生全員に１冊ずつカレンダーを配付した。（H30～R4）
- ◆ コンピュータ教育ソフトやたかはま夢未来塾と連携したロボット体験等のカリキュラムを策定し、小学校の高浜版プログラミング教育を構想した。（H30）
- ◆ ロボットプログラミングキットやプログラミング教育支援員を導入し、各小学校の教育環境の整備を行った。（H31）
- ◆ 高浜版プログラミング教育の全体カリキュラムに即して、全小学校において、児童の発達段階に応じた授業を行った。また、ICT を活用した授業実践について、高浜版ギガスクール構想推進委員会において、情報共有を行った。（R２～R4）
- ◆ 外国語教育を推進するために作成した小中連携の市内統一 CAN-DO リストを活用した授業実践に取り組み、指導案等を集約した。（R２～R4）

（４）支援の必要な児童生徒の「特別支援ファイル」の作成と引継を確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。【学校経営グループ】

- ◆ 幼保小中と引き継いできた特別支援ファイルを中学校卒業後の進学先・就労先等に保護者の了承を得て引継ぎを行った。（H30～R4）
- ◆ 特別支援教育コーディネーター連絡会で令和２年度に特別支援ファイルの形式や、作成方法について話し合った。保護者が記入するページや個別の指導計画について内容を精選した。（R2）
- ◆ 特別支援学級担当教員研修をこども発達センターと共同開催で実施した。（H31～R4）
- ◆ 特別支援教育コーディネーターガイドブックや特別支援教育に関する事例集を作成した。（R3）
- ◆ ２年目・３年目教員・スクールアシスタント・スクールサポーターを対象に特別な支援が必要な児童生徒への理解を深めるための研修会を行った。（R2～R4）
- ◆ 高浜市特別支援教育だより「てとて」を使って、学校における特別支援教育に関する体制についての情報を発信をした。（H30～R4）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	「自分や周りのよさを認める子どもの割合」は、H30 年度より目標値を上回った。支援が必要な子に対して、特別支援ファイルを作成し、次年度へ引き継ぐことで継続的な支援を確実に行った。そのため、子どもの安心感や自信につながったと考える。また、特別な支援について、様々な立場の教員を対象とした研修を行った。そのことが個に応じた指導力の向上となり、子どもは自己肯定感を高め、自分のよさに気づき、周りのよさも認められるようになったと考える。 「地域や社会に関心をもつ子どもの割合」は、H30 年度より目標値を上回った。高浜カリキュラムにおいて、生活科や総合的な学習の時間に高浜の人・もの・こととの関わりを重視した学習を継続的に実践し、毎年度見直しを図りながら子どもの実態に合ったよりよい実践を積み重ねた成果だと考える。 「学習が将来、役立つと感じている子どもの割合」は、目標値に届かなかったが、H29 年度の数値よりどの年度も上昇しており、R4 年度にピークとなった。幼保小中の異校種間連携事業や異校種参観を継続して実践した。そのため、子どもが将来の姿を想像し、目標をもって学習に取り組めるようになったり、教師が子どもの発達段階を把握し個に応じた指導ができるようになったりした成果と考える。また GIGA スクール構想で一人一台タブレットを導入し、各教科等の特質や学習過程を踏まえて積極的に活用したため、個別最適な学びと協働的な学びにつなげることができるようになってきた。新型コロナウイルス感染症の影響を受けていながらも数値が上昇したことは評価できると考える。

目標（5）

子育ち・子育てを支える環境を整えます

▲子育て支援講座

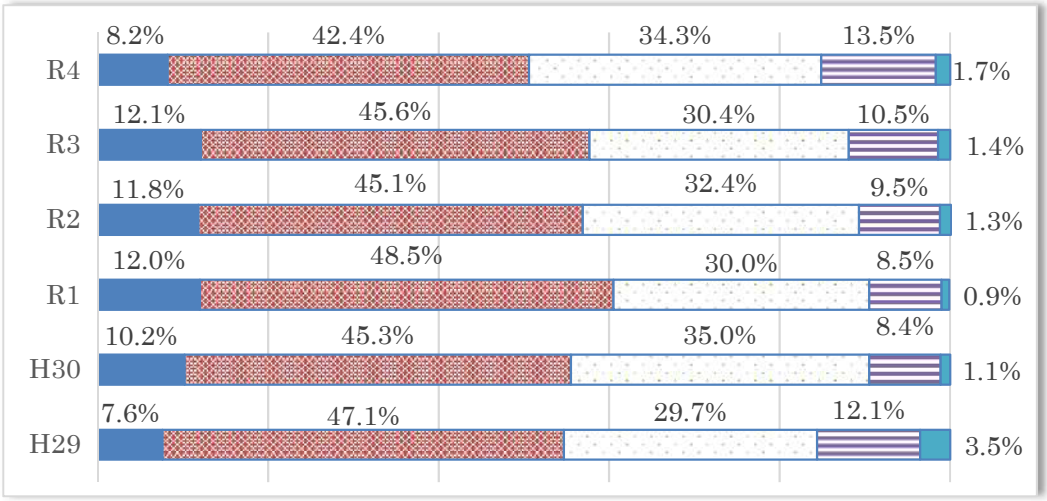
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	行政、地域、保護者の職場となる企業なども積極的に関わり、子どもが健やかに遊び、成長し、また、保護者が安心して子どもを産み育てることができるよう、子育ち・子育てを総合的に支援する環境を整えていきます。
目標が達成された姿	◎　安心して子どもを産み育てられる教育・保育環境や保護者が働く職場環境が整っています。 ◎　身近な大人をはじめ、市内の大人が子どもの目線を大切にし、子どもの遊びや成長を温かく見守る視点が常に共有されています。 ◎　日頃から子どもが気軽に集え、自然に世代間交流ができ、子どもがのびのびと活動できる身近な場所が整っています。

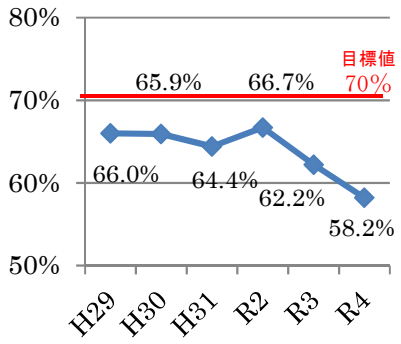
2．市民意識調査結果

【設問】子育ち・子育てを支える環境が整っているまちだと思う

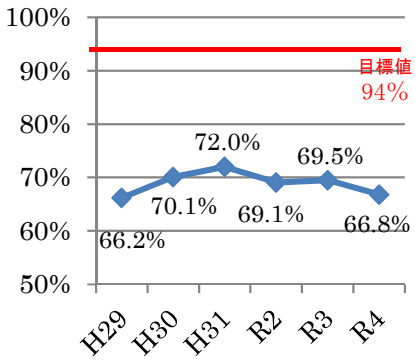


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

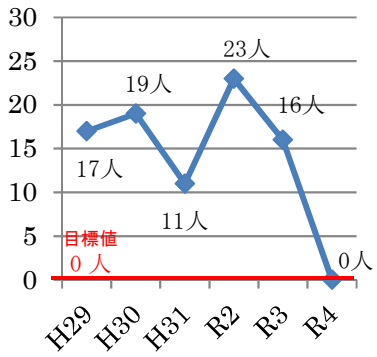
1）子どもを産み育てやすいと感じている人の割合



2）子どもに対して理解のある大人の割合



3）待機児童数



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。【こども育成グループ】
◆　H３１年１月から高浜幼稚園の民営化及び認定こども園化の移管事業者を募集した。（H30） ◆　第２期高浜市子ども・子育て支援事業計画を策定した。（H31） ◆　吉浜幼稚園の空き教室を活用した小規模保育事業（1，２歳児定員 15 名）の運営を開始した。（H31） ◆　R2年４月１日から民営化及びこども園化により、たかはまこども園の運営が開始され、１歳児 10 人、２歳児 18 人の受け入れ枠が拡充された。（R2） ◆　更なる待機児童対策として子ども・子育て支援計画に基づき、地域型保育事業の拡充に係る検討をして、１か所家庭的保育から定員枠を拡充した小規模保育への変更を進めた。（R2） ◆　R3 年４月１日より家庭的保育「からんこえ」を小規模保育「からんこえ」として３歳未満児の受け入れ枠を５名拡充した。（R３）
（２）子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子育ち・子育てを支える大人を増やしていきます。 （３）身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめるよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。【こども育成グループ】
◆　子育て支援員研修を実施するとともに、新たに地域向け子育ち・子育て支援講座を実施し、子育て支援に関する市民の理解が深まった。（H30～R３） ◆　夏休み等に、児童センターを利用する子ども向けに、地域の人材を活用した講座を開催したことにより、地域の人材の活用ができるとともに、子どもと地域人材の交流機会を設けた。（H30） ◆　子育て家族支援者養成講座及び地域向け子育ち子育て支援講座を予定通り実施した。（H31～R３） ◆　ポータルサイトを適正に管理し、メールマガジンを随時配信して子育て支援情報を子育て家庭が簡単に入手できる環境づくりを実施した。（H31～R3）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	客観的な指標である「待機児童数」については、R4 年度に０人を達成し、子どもを育てやすい環境に対して一定の成果を達成したと考えている。 しかし、「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」、「子どもに対して理解のある大人の割合」などの主観的な指標については、R2 年を境に減少傾向にある。 原因としては、新型コロナ感染症の流行により、人との繋がりが希薄になったことが要因として考えられる。

目標（6）

産業を活性化して、まちを元気にします

▲ジャンボ落花生品評会

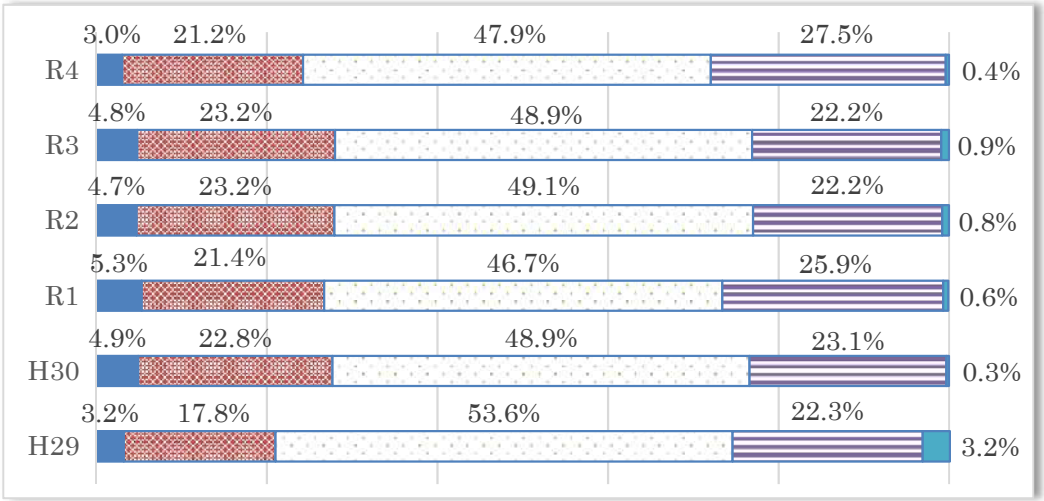
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	産業は、まちに活力を生み出し、市民の働く場の確保や所得を得て、消費の場となるなど、安定した市民生活を支える基盤です。優良農地の保全をしつつ、地場産業の振興、企業誘致の促進、企業や事業者の新たな取組みや意欲・挑戦を応援していきます。
目標が達成された姿	◎　産業活動が活発に行われ、市内の雇用が安定しています。 ◎　市内事業者の受注機会が増え、売り上げが増加しています。 ◎　市民が地域資源を掘り起こし、新たな視点も加え、まちの魅力を高めています。 ◎　まちの魅力に触れようと市内外から多くの人が訪れてきています。

2．市民意識調査結果

【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う

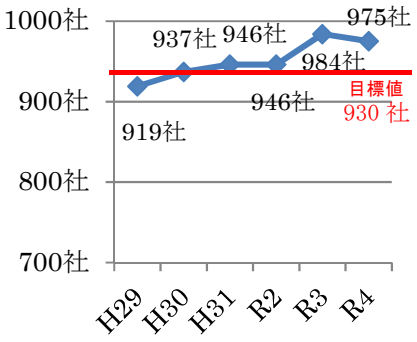


とても思う＋どちらかといえばそう思う（%）

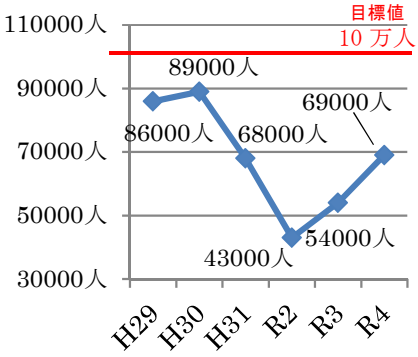
R4	24.2%
R3	28.0%
R2	27.9%
R1	26.7%
H30	27.7%
H29	21.0%

3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

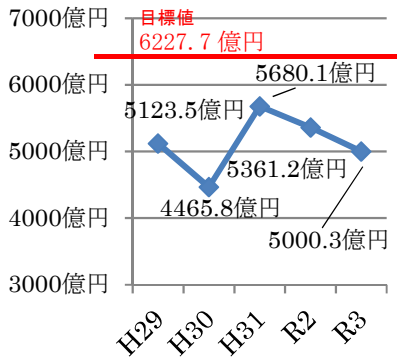
1）市内の法人数（社）



2）行政がかかわるイベントの来場者数（人）



3）製造品出荷額等（億円）



※R4 データは国で数値集計中

Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。【都市計画グループ】【経済環境グループ】

- ◆ ＪＡあいち中央産直振興課によるジャンボ落花生栽培講習会を開催した。（Ｈ３０～Ｈ３１）
- ◆ 豊田町地区の進出企業に、工場の建設に向けた許認可に対する手続き支援や工場建設に伴う補助金等の申請手続きなどの支援を実施した。（R2）
- ◆ JA あいち中央産直会員及び営農者へジャンボ落花生の栽培方法の統一化を図るため栽培手引きを配布した。（R2）
- ◆ JA あいち経済連、JA あいち中央、イオン（株）とジャンボ落花生の加工品の商品化について打合せをし、高浜産ジャンボ落花生を JA あいち中央へ出荷しイオン（株）へ販売する支援をした。（R2～R4）
- ◆ 過去に補助金を交付した企業に対して景気動向などのヒアリングを実施した。（R3）
- ◆ イオンモールにて販売を行った。また、試験栽培を行った落花生のＪＡあいち中央産直への出荷用として、「でか落花生」のオリジナルラベルを作成し、生産者へ配布した。「でか落花生」をふるさと納税の返礼品にするための調整をした。（R3）
- ◆ 農業者、 福祉事業所が連携し、農福連携推進事業に取組み「でか落花生」の収穫作業（もぎ取り、選別）を実施した。（R4）

（２）災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をＰＲするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。【経済環境グループ】

- ◆ 高浜市三州瓦屋根工事等奨励補助金を交付した。（H30～R4）
- ◆ 経産大臣指定「伝統的工芸品」の指定を受けたことにより三州瓦工業協同組合（伝統的工芸品産業部会）内で検討し、伝統的工芸品表示事業に取り組んだ。（H31）
- ◆ 愛知県三河の窯業展に対する支援をした。（R2～R4）
- ◆ 高浜市三州瓦屋根工事等奨励補助に加え高浜市三州瓦シャモット利用補助により三州瓦製品の利用拡大を図った。（R3～R4）

（３）高浜高校ＳＢＰを支援し、高浜市の産業を全国的にＰＲするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。【経済環境グループ】

- ◆ 高浜高校ＳＢＰによるオリジナルキャラクター焼き型の製作・販売活動、地元特産品を詰め合わせたセレクトギフト開発のための新商品開発活動を支援した。（H30）
- ◆ 高浜市の産業（瓦産業・自動車産業）の良さを発信するとともに、子どもたちと一緒に笑顔になることを目指し、プロバスケットボールチーム「シーホース三河」と連携を図り、「タツヲ焼きプロジェクト」を実施した。（H31～R4）
- ◆ セレクトギフトを高浜市応援ふるさと寄附金の返礼品ラインナップの中に加えた。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大により売り上げが落ち込んでいる市内の福祉事業所にセレクトギフト（返礼品）の梱包作業や発送作業などの仕事を依頼し、新たな仕事を創出した。（R2）
- ◆ 近隣高校の高校生が作ったジャムとのコラボ商品を販売した。（R3）
- ◆ 高齢者の福祉事業所を訪問し、利用者や近隣の園児等にタツヲ焼きを提供した。（R4）

（４）高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜市のＰＲに対し人的支援、活動支援をします。【経済環境グループ】

- ◆ 衣浦定住自立圏主催のイベント（於大まつり・名鉄ハイキング・わんさか祭り）と西三河広域観光推進協議会の出展提案イベント（西三河フォークジャンボリー）へ出展支援をした。（H30）
- ◆ 「鬼みちまつり」を支援した。（H31～R4）
- ◆ 高浜市観光案内所で、市制 50 周年記念として鬼師が作成した「鬼滅の刃」のキャラクター鬼瓦を販売したことにより売り上げが向上した。（R2）
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光事業全体の展開が厳しく、十分な収益を確保することができなかったが、オニマルシェを１５回開催した。（R3～R4）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	【都市計画グループ】 市内の法人数について、事業内容別では、販売に関する法人数が減少した一方で、製造に関する法人数は増加しており、法人数全体ではH29から５年間で大きく増加する結果となりました。このことから、ものづくり分野に対する市の補助制度等が一定の効果を生み、産業の活性化が図られたものと分析します。 【経済環境グループ】 ・市内の法人数は、R４年度に若干減少したものの、増加傾向で推移している。 ・行政がかかわるイベントの来場者数は、R２年度に新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりいったん減少したものの、H３１年度の当該感染症の影響が出る前の状況に回復した。しかしながら、目標値には届いていないため、引き続き、観光協会を通じた地域資源の発掘や魅力発信を行う必要がある。 ・製造品出荷額等については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出る前のH３１年度をピークに減少傾向である。引き続き、国や県の支援の動向を注視しつつ、市内中小企業に対する支援を検討する必要がある。

目標（7）

みんなでまちをきれいにします

▲フードドライブ

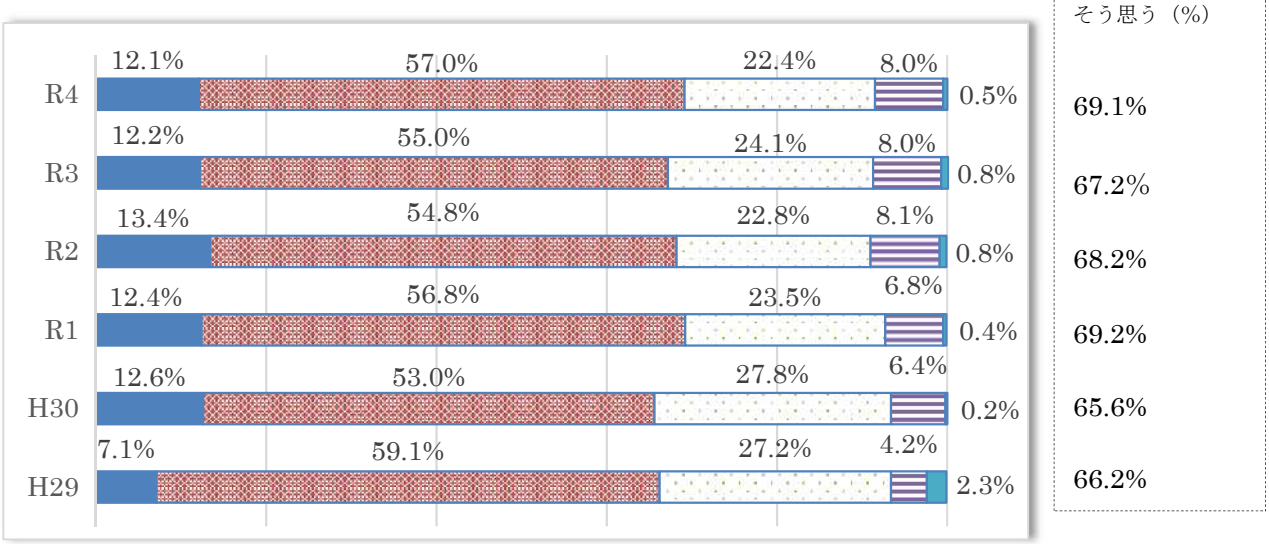
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と協力して環境に配慮した取組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	◎　地球環境から身近な生活環境まで、環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。 ◎　ごみをつくらない（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の3R 活動が推進され、ごみの減量化が図られています。 ◎　道路や公園などに、ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。

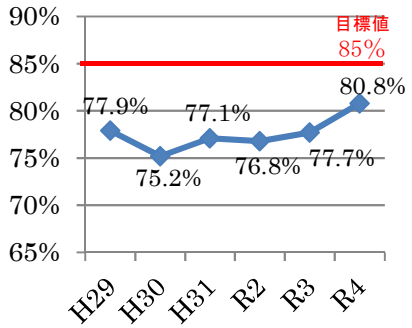
2．市民意識調査結果

【設問】みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う

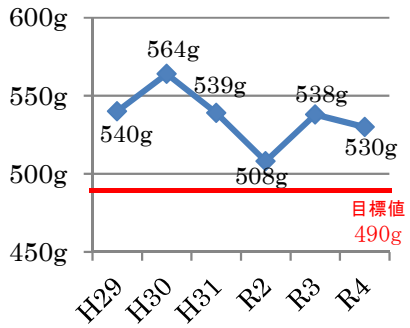


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

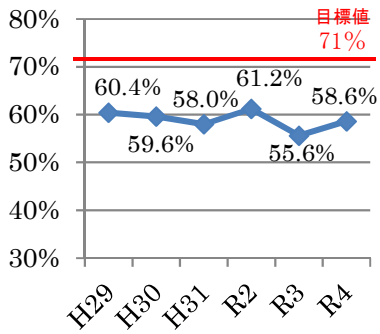
1）日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合



2）１人１日あたりの家庭ごみの排出量（g）



3）市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことのある人の割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全活動に取り組みます。
（２）循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを進め、ごみの減量化に取り組みます。
（３）「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進し、環境美化活動を進めます。

【経済環境グループ】

- ◆ 可燃ごみ指定袋の無料配布の廃止による有料化に対して、ごみ減量地区説明会を開催した。（H30）
- ◆ スマートフォン向け、分別アプリの構築及び運用を開始した。（H30）
- ◆ ごみの減量化の取組の案内を広報などにより市民へ周知し、併せて市内販売店にも、店内にごみの減量化のチラシの掲示を依頼した。（H31）
- ◆ 指定袋の無料配布の廃止及び価格改定（中１枚４０円→２０円、小１枚３０円→１５円）を行った。（H31）
- ◆ 町内会への立ち番等支援金を増額し、ごみの更なる減量化、資源化対策を町内会にお願いした。（H31）
- ◆ 外国人の転入時に通訳を通してゴミの出し方の説明を行った。また、ルールが守られていないごみステーションに多言語によるルール周知を行った。（H31～）
- ◆ ルールが守られていないごみステーションに多言語によるルール周知を行った。（R２）
- ◆ リネットジャパンリサイクル㈱と提携し、パソコンなど小型家電の宅配便での回収を開始した。（R3）
- ◆ 立ち番等支援金を活用いただき、各町内会のごみの資源化対策の取組みを取りまとめ、町内会と情報共有した。（R3）
- ◆ 食品ロスの削減のためフードドライブを実施した。（R4）また、残り物の食品や野菜の皮など、捨ててしまうものを利用した「我が家のもう一品レシピ」コンテストを実施し、入賞レシピを HP で公開した。（R3～R4）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合は目標値には届かなかったものの増加した。１人１日あたりの家庭ごみの排出量（ｇ）についても目標値には届いていないが、減少傾向とみることができる。 市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことのある人の割合はほぼ横ばいであった。

目標（8）

自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

▲地域団体と連携した公園清掃

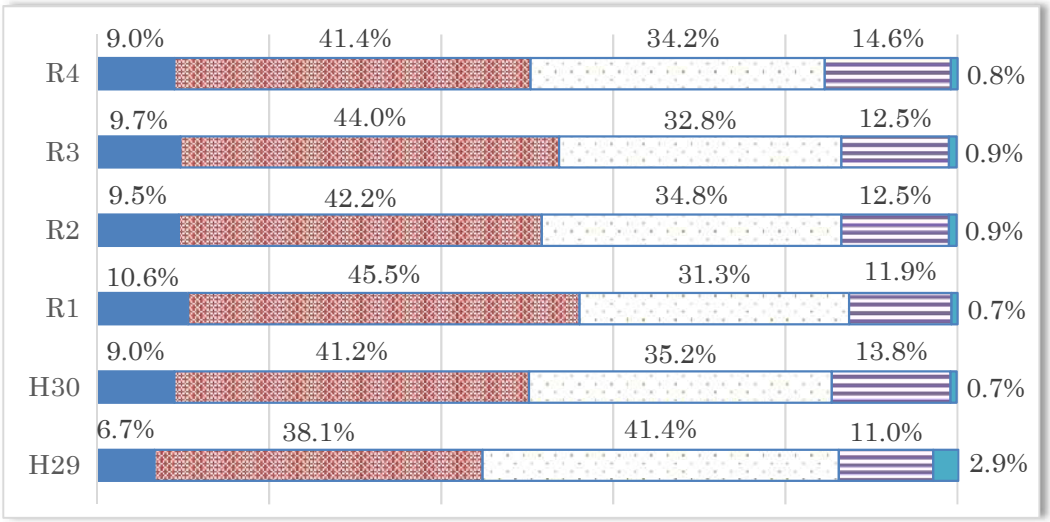
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	住みやすい快適な都市空間をつくるため、道路やライフライン等について、予防保全型の計画的な維持管理や長寿命化を図るとともに、公園・緑地といった地域資源を地域とともに守り、まちの魅力を高めていきます。
目標が達成された姿	◎　都市空間の調和を保ち、安心で安全な暮らしを支える道路などの整備・保全が計画的に行われています。 ◎　快適な生活の維持に必要不可欠なライフラインが整備されるとともに、いつでもすべての市民に安定して水が供給できています。 ◎　公園・緑地などが地域とともに守り育てられ、まちの憩いの場として親しまれています。

2．市民意識調査結果

【設問】調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う

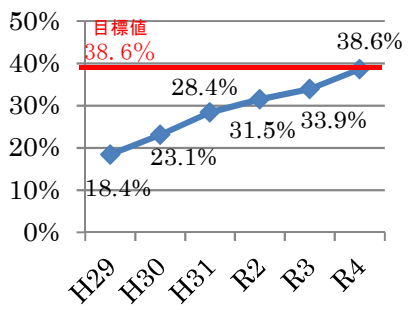


とても思う＋どちらかといえばそう思う（%）

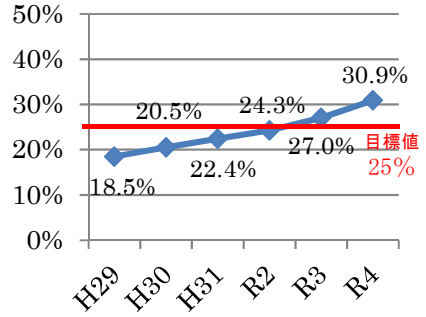
50.4%
53.7%
51.7%
56.1%
50.2%
44.8%

3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

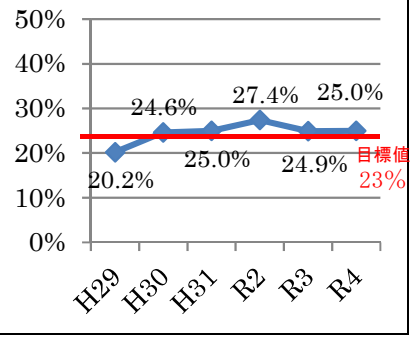
1）道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）



2）配水管の耐震化率



3）公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調査・点検を進め、改良や修繕を行います。【土木グループ】
◆　市内全体の幹線道路の舗装状態を把握するため、（舗装の健全度）を調査した。（H30） ◆　舗装維持管理計画を作成した。（H31） ◆　舗装修繕設計を実施した。（R２：一級市道宮裏高端線、一級市道三高駅東線　０．６１km、R3：二級市道呉竹向畑線、市道中久伝長縄線　０．６６km） ◆　舗装修繕工事を実施した。（H30：市道向山新川線　0.1 ㎞、H31：一級市道碧南高浜線　0.12 ㎞、市道東山中部線　0.18 ㎞　市道高田線　0.03 ㎞　一級市道豊田上畑線外１路線　0.16 ㎞　、R2：一級市道三高駅東線　0.17 ㎞、R3：一級市道宮裏高端線　0.１４ ㎞、R4：一級市道宮裏高端線　0.17 ㎞） ◆　橋りょうの保守点検を実施した。（H31、R3、R4）
（２）災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えするなど、耐震化を進めます。【上下水道グループ】
◆　配水管を耐震管に入れ替えた。（H30：市道中部 30 号線外、H31：主要地方道岡崎半田線外、R2：市道東山小中根線外、R3：市道東山小中根線外、R4：市道東中根比里久伝線外） ◆　配水場の老朽設備を更新した。（H30～R3：高浜配水場、H31～R4：吉浜配水場） ◆　重要給水施設（指定避難所）への配水管を耐震管に入れ替えた。（重要給水施設：吉浜小学校）（H30～H31）
（３）公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。【土木グループ】
◆　地域の利用状況等を把握するため公園利用調査を実施した。（H30） ◆　ＮＰＯ団体等の行事に参加し、地域の団体の方と協働で、公園、緑地、街路樹や水辺の保全活動を行った。また、花壇の里親の活動をより円滑にするためゴミ袋を配布した。（H30） ◆　後世山公園の遊具改修において、利用状況やニーズを調査し、地域の意見等を踏まえた遊具に改修を行った。（H31） ◆　まち協やＮＰＯ団体等の行事に参加し、地域団体の方と協働で、公園、緑地、街路樹や水辺の保全活動として、苗木や花苗の配布を行った。（H31～R4） ◆　碧海公園の遊具改修において、利用状況やニーズを調査し、地域の意見等を踏まえた遊具に改修を行った。（R２） ◆　老朽化した大清水公園の照明灯を、維持管理費の安価な LED 照明灯に更新を行った。（R3） ◆　老朽化した東中根児童遊園の遊具の更新を行った。（R3） ◆　老朽化した後世山公園の東屋の更新を行った。（R4）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	【土木グループ】 ○まちづくり指標「道路の長寿命化を計画的に実施した割合」38.6% ・舗装修繕計画に基づき、計画的に工事を実施し、舗装修繕を進めたことにより、目標値を達成できた。 【上下水道グループ】 ○まちづくり指標「配水管の耐震化率」３０.９% ・新規埋設管、下水道整備区域内の配水管及び老朽化した配水管を計画的に耐震管に入れ替えたことで、管路の耐震化の目標値を超えることができた。

目標（9）

安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

▲高浜市総合防災訓練

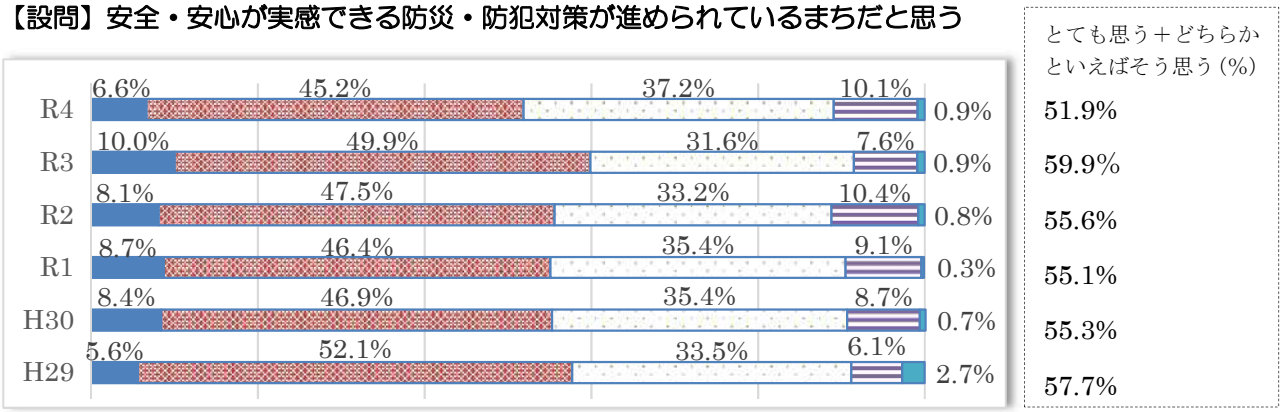
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	近い将来に発生が予測される大震災に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害、身近に起きる犯罪・交通事故から生命を守り、被害を最小限に食い止めるため、市民・地域・事業者・関係機関・行政がそれぞれの役割を果たし連携を図る中で、安全・安心に暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	◎　市民一人ひとりが、災害・犯罪・交通事故に対する予防や備えに取り組んでいます。 ◎　「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携が強化され、防災・減災対策、防犯・交通安全対策など、安全・安心を守る活動が地域の中で積極的に行われています。 ◎　誰もが安全で安心だと感じながら暮らしています。

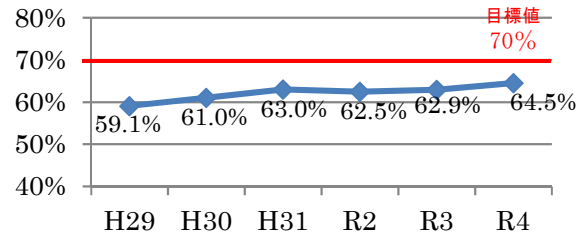
2．市民意識調査結果

【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う

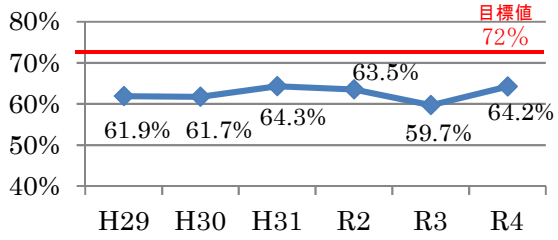


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

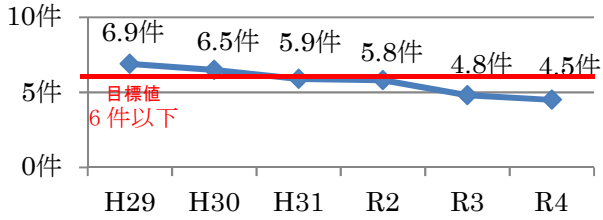
1）家具を固定している人の割合



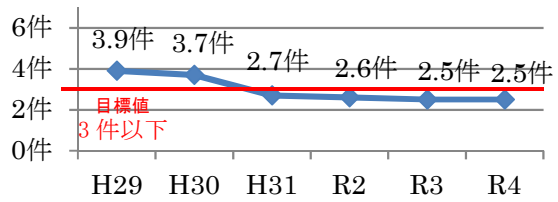
2）防災訓練に参加したことのある人の割合



3）人口 1,000 人当たりの犯罪発生件数



4）人口 1,000 人当たりの交通事故発生件数



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。【防災防犯グループ】
◆ 地域防災リーダー養成講座を開催し、町内会・まちづくり協議会・地域赤十字奉仕団など、地域防災の要となる市民に多数参加いただいた。（H30～R４） ◆ 避難所の屋内・屋外レイアウトを作成した。（H31：吉浜小学校・吉浜公民館、R2：高浜小学校・地域交流施設等、R４：高取小学校、翼小学校、高浜中学校、南中学校） ◆ 市内在住の防災士等が主体となり、外国人向け防災勉強会を実施した。（H31） ◆ 商工会と災害時における応急物資等の支援協力に関する災害協定を締結した。（H31） ◆ 地域防災リーダー養成講座や職員の出前講座などで、高浜市防災マップを使って、市内のリスクがある場所や避難所、避難場所についての説明や防災マップに同封しているマイ・タイムラインの重要性と作成方法について講座を行った。（R3～Ｒ４）
（２）「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。【防災防犯グループ】
◆ 安全なまちづくり運動期間中の駅やスーパー等での啓発活動、年金支給日に銀行での特殊詐欺防止活動、毎月 10 日に防犯診断自宅訪問などを実施した。（H30～H31） ◆ 地域及び警備会社による青色防犯パトロール活動を実施した。（H30～R4） ◆ 企業や団体からの寄附により、地域住民や警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議等で決定した６箇所（主要交差点等）に、防犯カメラを設置した。（H30） ◆ R10 年度までの防犯カメラ更新及び設置計画を作成した。また、町内会からの要望等を踏まえ、要綱に基づき防犯灯を設置した。（H31～R4） ◆ 高齢者を狙った特殊詐欺の予防対策として、広報の表紙に、電話機に貼付できる注意喚起用の案内ステッカーを掲載し配布した。（R2）
（３）地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みなど、交通安全対策を進めます。【防災防犯グループ】
◆ ゼロの日の街頭活動、交通安全運動期間中の一斉大監視活動、スーパー等での啓発活動を実施した。（H30～R4） ◆ 高浜市交通安全協会が主体となり、自主返納した高齢者に、商店振興会加盟店で使用でき、いきいき号の回数券も購入できるスマイルカードを贈呈する取り組みを開始した。（H30） ◆ 「パトネットあいち」の広報やホームページへの掲載、まちづくり協議会の会議や防災訓練説明会など、住民が参加する様々な機会を活用して概要説明を行い登録促進に努めた。（H30） ◆ 高齢ドライバーを対象とした後付安全運転支援装置設置費の補助を行った。（Ｒ２～Ｒ３） ◆ 小学生を対象に、自転車の安全な乗り方教室を実施した。（H30～H31、Ｒ３～Ｒ４） ◆ ７歳から 18 歳及び 65 歳以上の市民を対象に、安全認証の備わった自転車用ヘルメットの購入費の補助を行った。（R3～Ｒ４）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	「1.家具を固定している人の割合」は、年々微増しているが目標値との乖離が未だにある。町内会等での防災学習会や窓口で補助制度をアピールするなど、啓発に努めたい。 「2.防災訓練に参加したことのある人の割合」は、町内会未加入者でも防災訓練に参加できることを、まち協等と協力して啓発し参加人数を増やすことで防災意識の向上に努めたい。 「3.人口 1,000 人当たりの犯罪発生件数」は、年々減少傾向にあり、引き続き警察やまちづくり協議会、町内会等の関係団体と協力して青色防犯パトロール等の防犯活動に努めるとともに、特殊詐欺等の注意喚起も継続したい。 「4.人口 1,000 人当たりの交通事故発生件数」は、減少傾向であり、引き続き警察や交通安全協会、交通安全指導員会等と協力し街頭啓発活動等を積極的に行っていきたい。

目標（１０）

一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

▲障害者地域自立支援協議会による避難所模擬体験

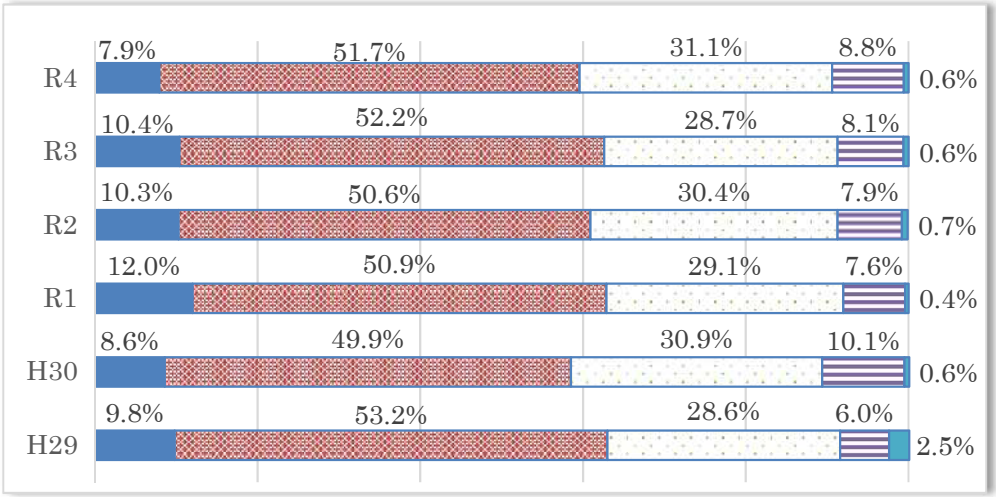
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	市民が抱える課題や福祉ニーズは、年々複雑化・多様化しています。家族、近所、町内会、まちづくり協議会などの地域のネットワークや事業者、関係機関などが協力して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して生活できる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	◎　困りごとを抱え、支援を必要とする人に対して、包括的な相談支援が行われています。 ◎　支援を必要とする人に対して、ニーズに応じた福祉サービスが提供され、誰もがその人らしくいきいきと暮らしています。 ◎　福祉サービスやふだんの生活を支える人材が確保され、地域の中で互いが協力し、支え合いの担い手として活躍しています。

２．市民意識調査結果

【設問】一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う

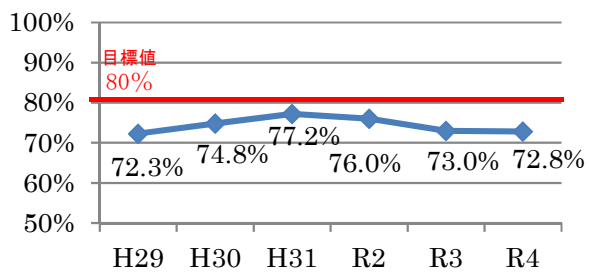


とても思う＋どちらかといえばそう思う（%）

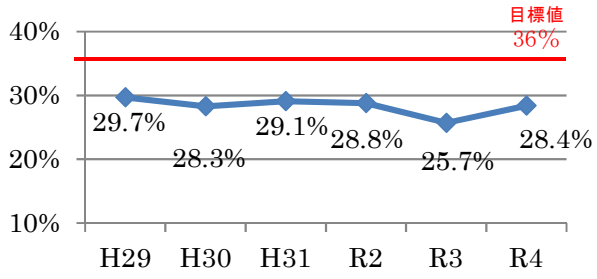
59.6%
62.6%
60.9%
62.9%
58.5%
63.0%

３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

１）いきいき広場（総合相談窓口）を知っている人の割合



２）高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。【地域福祉グループ】
◆ いきいき広場でハローワークの巡回相談を開設するとともに、刈谷ハローワークの就労自立促進事業と連携した就労支援を行った。（H30～） ◆ 中高校生を対象とした「ステップ」、小学校高学年を対象とした「ステップジュニア」として継続的な学習支援を実施した。（H30～） ◆ こども貧困対策会議を開催し、生活困窮世帯等の子どもの支援の在り方等を検討した。（H30～R4） ◆ ひきこもり等の社会的孤立者の支援のため対象者へ寄り沿う伴走型の支援員を配置した。（R2～） ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響により増加した生活困窮世帯に対し、貸付や給付金等の各種支援制度が利用できるよう、その世帯に応じた自立支援策の提案を行った。（R3） ◆ 学習支援事業の利用者への進路決定支援として、進路選択期にある子どもたちを対象にインターンシップチャレンジを実施した。（R3～）
（２）その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。【地域福祉グループ】【介護障がいグループ】【福祉まるごと相談グループ】
◆ 町内会長、まちづくり協議会防災担当等の避難支援関係者に要支援者名簿を配布し、避難訓練等で名簿を活用した訓練等の実施を呼び掛けた。（H30～） ◆ 障害者地域自立支援協議会防災部会を開催し、ヘルプカードの作成、避難訓練実施及び避難所模擬体験並びに防災勉強会を開催した。（H30～） ◆ 障害者地域自立支援協議会地域生活支援拠点部会を開催し、拠点の候補施設を見学した上で、拠点整備に必要な機能を検討し、拠点整備の方向性を確認した。（H30） ◆ 認知症の方やその家族が事故等により本人だけでなく他者へ損害を与えてしまうなどの不安を軽減するため市が契約者となり、市民で支える仕組みとして個人賠償責任保険へ加入した。（H31～） ◆ 地域生活支援拠点を創設し、支援が必要な方に対して適切なサービスを提供した。（R3～）
（３）福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様な人材を養成します。【介護障がいグループ】【福祉まるごと相談グループ】
◆ 地域介護力向上プロジェクトを立ち上げ、「介護人材の確保・育成」「多職種連携」「介護予防プログラム開発」３つのチームでそれぞれの課題を検討した。介護人材確保セミナーを開催した。（H30） ◆ 「介護人材の確保・育成チーム」において、「高浜市介護サービスガイド」パンフレットを作成した。 ◆ 「介護人材の確保・育成チーム」において、市内事業所に研修アンケートを実施し、研修プログラムを作成した。 ◆ 各事業所の研修に他事業所職員が受講できる「介護事業所相互交流研修事業」を開始した。（H31～） ◆ 市内福祉事業所、行政による福祉人材（介護・障がい）の確保・育成に係る意見交換会を立ち上げ、福祉人材確保に向けた意見交換を行った。（R4～）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	【地域福祉グループ】 「いきいき広場（総合相談窓口）を知っている人の割合」、「高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合」ともに目標値に届かなった。引き続き、福祉のワンストップサービスによる、地域包括ケアを目指す福祉の拠点としての「いきいき広場」及び地域住民の知識や経験を生かせるボランティア活動の魅力を積極的に発信していく必要がある。

目標（１１）

一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

▲健康体操

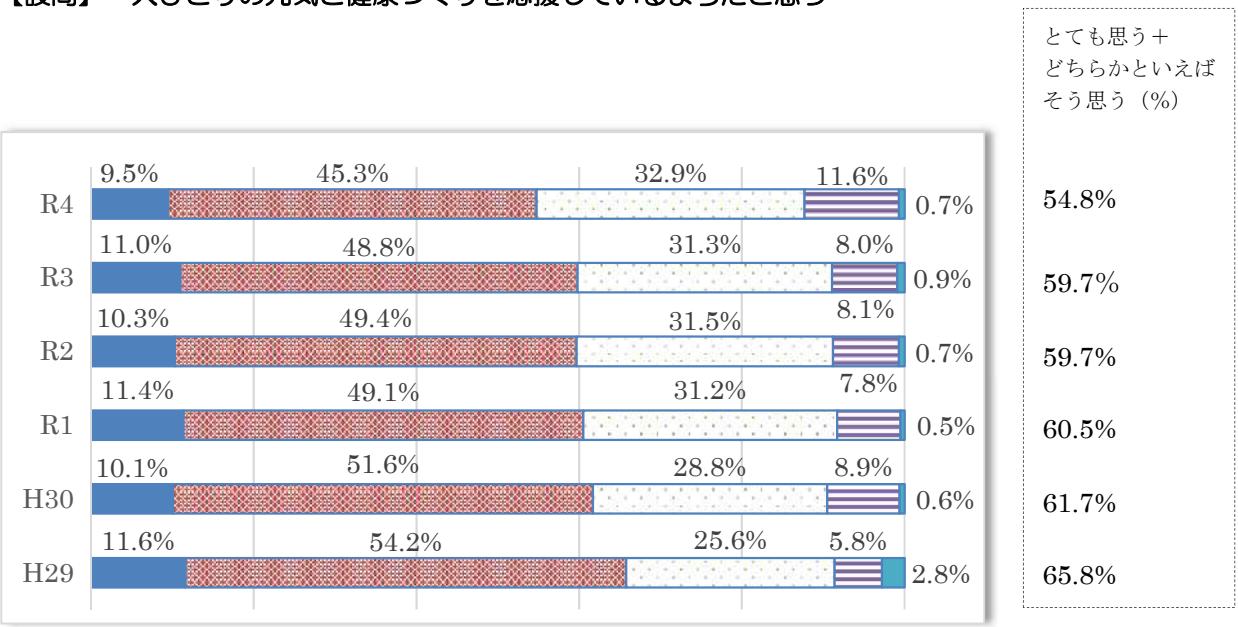
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活するためには健康であることが大切です。一人ひとりが健康づくり活動に取り組むことができるよう、地域全体で健康寿命を延ばしていくための環境づくりを進めます。
目標が達成された姿	◎　若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態を把握し、健康づくり活動へ積極的に参加しています。 ◎　誰もが住み慣れた地域で、生きがいや役割を持ち、健康でいきいきと暮らしています。 ◎　医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。

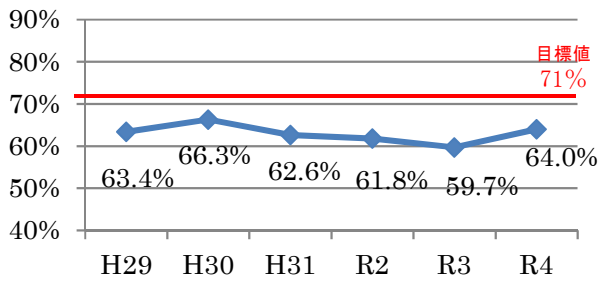
２．市民意識調査結果

【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う

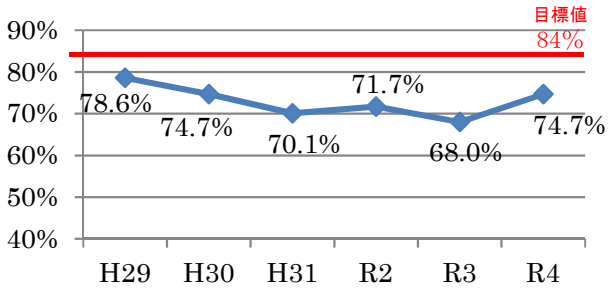


３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

１）日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合



２）かかりつけ医を持っている人の割合



Ⅱ．目標達成のための後期基本計画の主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の主な実施内容）

※前期・中期基本計画の取り組みは各総括資料をご覧ください

（１）生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるための健康づくり活動を応援します。【健康推進グループ】
◆ 市内在住 18 歳以上の方を対象に、たかはま健康チャレンジ事業を実施した。（H30～R4） ◆ 健康づくり推進委員がテーマに沿って各地域で活動した。（H30：減塩、H31～R4：野菜を食べよう） ◆ 健康づくり推進委員が、コロナ禍に自宅でできる健康法の紹介として「野菜を食べよう」をテーマに情報紙を作成し、全戸配布した。（R2） ◆ 健康づくり推進委員がインスタグラムを活用して、新たな健康づくりの情報発信を始めた。（R3～R4） ◆ 健康づくり推進委員が地域のイベントなどで健康づくりの情報発信を行った。（R3～R4） ◆ ６年生児童を対象に、生活習慣病予防教室を実施した。（H31～R4） ◆ コロナ禍における高齢者の健康づくりやフレイル予防等について、情報誌「でいでーる」などに掲載し、情報提供を行った。（R3～R4） ◆ 国立長寿医療研究センターと共同で、研究事業の一環として行う健康増進教室「コグニ倶楽部」を実施した。（R3～R4）
（２）高齢者の居場所である「健康自生地」を応援するとともに、担い手としての活躍の場を創出します。【健康推進グループ】
◆ 健康自生地の担い手として、元気な高齢者に活躍してもらうため、イベント等へのお手伝い役としての参加を促した。（H30） ◆ 「脳とからだの健康チェック」で予防活動が必要とされた高齢者、外出機会が減っている高齢者を対象に、外出促進事業「コグニタウン事業」を実施した。（H30～R4） ◆ 健康自生地の担い手に、認知症サポーター養成講座を継続的に実施することで、認知症への理解を広めた。（R3～R4） ◆ 厚生労働省が協力している「オンライン通いの場」アプリに健康自生地を登録し、健康自生地の利用を促した。（R3～R4） ◆ 自生地ウォーキング等のイベントを開催するほか、広報誌「でいでーる」やポータルサイト「たかはま元気 de ねっと」を活用し、多くの方に健康自生地を知ってもらうよう努めた。（H31～R4） ◆ 65 才以上の希望する市民にもホコタッチを配布することで、高齢者の健康維持とともに地域へ出かけるきっかけづくりを行った。（R2～R4）
（３）疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「かかりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療と介護の連携を推進します。【福祉まるごと相談グループ】【健康推進グループ】
◆ H30.4 から医療と介護の連携推進事業の中で、専門性の高い医療分野の業務を刈谷医師会及び刈谷豊田総合病院へ３市で共同委託したほか、医療法人豊田会と協力して地域医療の継続を図るため、市内に高浜豊田病院がオープンした。（３市：刈谷・知立・高浜） ◆ 休日及び夜間における診療を確保するため、医科及び歯科医師会との連携を図り、在宅当番医制を実施するとともに、６市による２次救急医療体制を継続した。（H30～R4） ◆ 子育て世代への周知を図るため、乳幼児健診、母子手帳アプリ「ぴよポケット」で、かかりつけ医を持つことの推奨を行った。（H30～R4） ◆ 「えんｊｏｙネット高浜」の広域利用を可能とするため、愛知県内 47 市町村と連携協定を締結した。（R2）

Ⅲ．後期基本計画の指標の分析

後期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」の結果の分析	【健康推進グループ】 指標①の「外出や運動を楽しんでいる人の割合」の計画期間中の指標の数値が伸び悩んだ原因としては、新型コロナウイルスの感染対策の長期化による影響が大きかったと分析していますが、R5 からは、法律に基づく外出自粛等も求められなくなり、コロナ禍以前の状態に近づき、平時の外出支援策を再開等し、数値の改善が図れると考えています。また、指標②のの数値においても、国からは「かかりつけ医」等による個別医療機関を中心とする体制への移行が求められていることから、今後上昇が期待されると考えています。

■ 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果

目標		計画策定時の値（平成29年）	実績値（平成30年）	実績値（令和元年）	実績値（令和２年）	実績値（令和３年）	実績値（令和４年）	動向
1	まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	62.2%	61.8%	60.6%	61.7%	62.3%	56.0%	×
2	将来を見据えた健全な財政運営を行います	46.6%	45.1%	46.7%	43.7%	45.2%	40.0%	×
3	学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	55.2%	53.4%	54.6%	51.9%	52.0%	48.0%	×
4	学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	58.8%	62.0%	64.0%	61.3%	61.6%	56.6%	×
5	子育ち・子育てを支える環境を整えます	54.7%	55.5%	60.5%	56.8%	57.7%	50.6%	×
6	産業を活性化して、まちを元気にします	21.0%	27.7%	26.7%	27.9%	28.0%	24.2%	△
7	みんなでまちをきれいにします	66.2%	65.6%	69.2%	68.2%	67.2%	69.1%	◎
8	自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	44.8%	50.2%	56.1%	51.7%	53.7%	50.4%	△
9	安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	57.7%	55.3%	55.1%	55.6%	59.9%	51.9%	×
10	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	63.0%	58.5%	62.9%	60.9%	62.6%	59.6%	×
11	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	65.8%	61.7%	60.5%	59.7%	59.7%	54.8%	×

【動向】

◎…実績値（R4 年）が計画策定時の値（H29 年）と実績値（R3 年）をともに上回っている。

○…実績値（R4 年）が計画策定時の値（H29 年）を下回っているが、実績値（R3 年）を上回っている。

△…実績値（R4 年）が計画策定時の値（H29 年）を上回っているが、実績値（R3 年）を下回っている。

×…実績値（R4 年）が計画策定時の値（H29 年）と実績値（R3 年）をともに下回っている。

■ 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧

＊…市民意識調査で測定した指標

目 標		みんなでめざすまちづくり指標（目標の達成度を計る指標）	計画策定時の値（H29年）	実績値（H30年）	実績値（R元年）	実績値（R2年）	実績値（R3年）	実績値（R4年）	動向	目標値（R4年）
1	まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	市の情報発信に満足している人の割合*	47.3%	62.0%	60.3%	57.5%	55.7%	51.2%	△	65%
		地域活動に参加したことがある人の割合*	62.9%	58.6%	60.1%	63.5%	57.0%	62.6%	○	70%
		市民と一緒になって地域活動に取り組んでいる職員の割合	54.0%	55.0%	60.0%	45.0%	40.0%	34.4%	×	66%
2	将来を見据えた健全な財政運営を行います	経常収支比率	88.8%	89.3%	88.3%	89.4%	89.7%	91.1%	×	80%台維持
		将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合*	46.6%	45.1%	46.7%	43.7%	45.2%	40.0%	×	55%
3	学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合*	71.4%	66.4%	67.6%	68.2%	64.0%	65.7%	○	76%
		将来の夢・希望・目標を持っている子	76.1%	75.8%	69.6%	75.5%	73.9%	75.3%	○	81%
		持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合*	28.5%	27.9%	30.3%	30.8%	28.7%	31.4%	○	35%
4	学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	自分や周りのよさを認める子どもの割合* ★注意１	78.5%	90.3%	88.1%	89.8%	89.2%	91.4%	◎	85%
		地域や社会に関心をもつ子どもの割合* ★注意２	59.2%	74.5%	71.9%	71.4%	70.9%	72.5%	◎	70%
		学習が将来、役立つと感じている子 ★注意３	76.7%	80.4%	77.3%	80.9%	80.2%	83.1%	○	85%
5	子育ち・子育てを支える環境を整えます	子どもを産み、育てやすいと感じてい	66.0%	65.9%	64.4%	66.7%	62.2%	58.2%	×	70%
		子どもに対して理解のある大人の割合*	66.2%	70.1%	72.0%	69.1%	69.5%	66.8%	△	94%
		待機児童数	17人	19人	11人	23人	16人	0人	◎	0人
6	産業を活性化して、まちを元気にします	市内の法人数	919社	937社	946社	946社	984社	975社	○	930社
		行政がかかわるイベントの来場者数	86,000人	89,000人	68,000人	43,000人	54,000人	69,000人	○	100,000人
		製造品出荷額等	5,123.5億円	4,465.8億円	5,680.1億円	5,361.2億円	5,000.3億円	国で集計中	—	6,227.7億円
7	みんなでまちをきれいにします	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合*	77.9%	75.2%	77.1%	76.8%	77.7%	80.8%	○	85%
		１人１日あたりの家庭ごみ排出量	540g	564g	539g	508g	538g	530g	○	490g
		市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことのある人の割合*	60.4%	59.6%	58.0%	61.2%	55.6%	58.6%	○	71%

8	自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）	18.4%	23.1%	28.4%	31.5%	33.9%	38.6%	◎	38.6%
		配水管の耐震化率	18.5%	20.5%	22.4%	24.3%	27.0%	30.9%	◎	25%
		公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合*	20.2%	24.6%	25.0%	27.4%	24.9%	25.0%	◎	23%
9	安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	家具を固定している人の割合*	59.1%	61.0%	63.0%	62.5%	62.9%	64.5%	○	70%
		防災訓練に参加したことのある人の割合*	61.9%	61.7%	64.3%	63.5%	59.7%	64.2%	○	72%
		人口 1,000 人あたりの犯罪発生件数	6.9 件	6.5 件	5.9 件	5.8 件	4.8 件	4.5 件	◎	6.0 件
		人口 1,000 人あたり交通事故発生件数	3.9 件	3.7 件	2.7 件	2.6 件	2.5 件	2.5 件	◎	3.0 件
10	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	いきいき広場（相談窓口）を知っている人の割合*	72.3%	74.8%	77.2%	76.0%	73.0%	72.8%	△	80%
		高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合*	29.7%	28.3%	29.1%	28.8%	25.7%	28.4%	○	36%
11	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合*	63.4%	66.3%	62.6%	61.8%	59.7%	64.0%	○	71%
		かかりつけ医を持っている人の割合*	78.6%	74.7%	70.1%	71.7%	68.0%	74.7%	○	84%

★注意１　２つの設問の平均値…①自分は成長している(成長した)と思いますか
②あなたの周りは、お互いの考えを認めたりよさを見つけたりすることができていると思いますか

★注意２　２つの設問の平均値…①あなたは、高浜の人、もの、ことに関心がありますか
②あなたは、社会に関心をもって、新聞を読んだり、テレビやネットのニュースを見たりしますか

★注意３　４つの設問の平均値…①分からないことがあった時、調べたり、どういうことか考えたりしますか
②学習したことを活用していろいろな問題の解決に役立てていますか
③学習したことや考えたことを、表現を工夫して人に伝えたことはありますか

◎＝実績値(R4 年)が目標値に達している。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜ 指標 8／31 指標＞
○＝実績値(R4 年)が目標値に達していないが、実績値(R3 年)を上回っている。もしくは、
実績値(R4 年)が目標値に達しているが、実績値(R3 年)を下回っている。・・・・＜ 指標 15／31 指標＞
△＝実績値(R4 年)が計画策定時の値(H29 年)を上回っているが、実績値（R3 年）を下回っている。
・・・・＜ 指標 3／31 指標＞
×＝実績値(R4 年)が計画策定時の値(H29 年)・実績値（R3 年）をともに下回っている。
・・・・＜ 指標 4／31 指標＞

3

第6次総合計画の全体総括

1．目指す姿

第 6 次総合計画［計画期間：平成 23 年度～令和 4 年度（新型コロナウイルス感染症の影響により計画期間を 1 年間延長）］では、12 年後の目指す姿（将来都市像）に「思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま」を掲げて市政運営に取り組んできました。また、将来都市像を実現するためのまちづくりの基本目標として、『Ⅰ　みんなで考え　みんなで汗かき　みんなのまちを創ろう』、『Ⅱ　学び合い　力を合わせて　豊かな未来を育もう』、『Ⅲ　明日を生み出すエネルギー　やる気を活かせるまちをつくろう』、『Ⅳ　いつも笑顔で健やかに　つながり 100 倍ひろげよう』　を掲げて施策を推進してきました。

2．市民意識調査及び「みんなで目指すまちづくり指標」の結果

（１）基本計画の施策に対する市民意識調査結果

※数値は目標のまちになっていると感じる市民の割合を示しています。

将来都市像	基本目標	分野	前期基本計画（３年間）			中期基本計画（４年間）			後期基本計画（５年間）※感染症の影響により１年延長			
			目標	平成 22 年（計画期間前）	平成 25 年（計画期間後）	目標	平成 25 年（計画期間前）	平成 29 年（計画期間後）	目標	平成 29 年（計画期間前）	令和３年（当初計画期間後）	令和４年（計画期間延長後）
思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま	みんなで考え　みんなで汗かきみんなのまちを創ろう	協働推進	市民とともに歩む経営を行います	46.4%	56.3%	まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	66.4%	58.9%	まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	62.2%	62.3%	56.0%
			市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います	46.7%	58.1%							
		財政運営	次世代のために、健全な財政運営を行います	36.1%	46.3%	将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	44.5%	41.6%	将来を見据えた財政運営を行います	46.6%	45.2%	40.0%
	学び合い　力を合わせて　豊かな未来を育もう	生涯学習・文化・スポーツ	学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます	45.4%	55.0%	人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	58.9%	51.5%	学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	55.2%	52.0%	48.0%
		学校教育	心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります	45.5%	54.5%	学校・家庭・地域が連携を深め、１２年間の学びや育ちをつなげます	61.5%	58.0%	学校・家庭・地域が連携を深め、12 年間の学びや育ちをつなげます	58.8%	61.6%	56.6%
		子育ち・子育て	人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます	48.9%	60.9%	地域ぐるみで子育ち・子育てを支えます	53.3%	52.0%	子育ち・子育てを支える環境を整えます	54.7%	57.7%	50.6%
	明日を生み出すエネルギー　やる気を生かせるまちをつくろう	産業	まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします	17.7%	25.6%	産業を活性化して、まちを元気にします	26.9%	23.8%	産業を活性化して、まちを元気にします	21.0%	28.0%	24.2%
			地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます	16.2%	23.7%							
		環境	みんなでまちをきれいにします	58.6%	66.3%	みんなでまちをきれいにします	64.1%	64.8%	みんなでまちをきれいにします	66.2%	67.2%	69.1%
		都市基盤	ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	42.8%	47.7%	ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	45.8%	44.8%	自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	44.8%	53.7%	50.4%
			自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます	58.0%	64.9%							
		防災・防犯	安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます	52.3%	56.6%	安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	56.3%	53.7%	安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	57.7%	59.9%	51.9%
	いつも笑顔で健やかにつながり 100 倍ひろげよう	福祉	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	55.1%	63.0%	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	59.4%	59.6%	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	63.0%	62.6%	59.6%
		健康	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	52.2%	61.7%	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	57.9%	62.3%	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	65.8%	59.7%	54.8%

将来都市像（キャッチフレーズ）の浸透度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
「思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま」を知っている人の割合	22.4%	33.6%	39.9%	41.4%	43.4%	48.0%	46.7%	43.7%	44.3%	42.3%	41.5%	43.8%

（２）「みんなで目指すまちづくり指標」の結果

将来都市像	基本目標	前期基本計画（３年間）					中期基本計画（４年間）					後期基本計画（５年間）				
		目標	指標	計画期間前	計画期間後	目標値	目標	指標	計画期間前	計画期間後	目標値	目標	指標	計画期間前	計画期間後	目標値
思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま	みんなで考え　みんなで汗かきみんなのまちを創ろう	市民とともに歩む経営を行います	目指すまちの姿である「思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま」を知っている人の割合	―	39.9	30	まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます					まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります				
			総合計画の評価や進行管理に参加したことがある人の数	―	131 人	100 人										
								いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合	79.4	79.6	85		市の情報発信に満足している人の割合	47.3	51.2	65
		次世代のために、健全な財政運営を行います	将来負担比率	20.9	将来負担なし	将来負担なし	将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	自主財源の額	100 億円	103 億円	105 億円	将来を見据えた財政運営を行います	経常収支比率	88.8	91.1	80%台維持
			市の財政状況に関心を持っている人の割合	74.2	72.3	80		市の財政状況に関心を持っている人の割合	68.8	73.0	80		将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合	46.6	40.0	55
		市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います	「高浜市自治基本条例」を知っている人の割合	―	12.7	30	まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます					まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります				
			地域活動に参加したことがある人の割合	45.4	55.2	55		地域活動に参加したことがある人の割合	56.0	61.2	65		地域活動に参加したことがある人の割合	62.9	62.6	70
			地域活動に参加している職員の割合	45	61.1	60		地域活動に参加している職員の割合	63.1	92.7	80		市民と一緒になって地域活動に取り組んでいる職員の割合	54	34.4	66
	学び合い　力を合わせて　豊かな未来を育もう	学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合	64	72.4	68	人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合	72.0	64.1	76	学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合	71.4	65.7	76
			将来の夢を持っている子どもの割合	77.8	78.7	80		将来の夢を持っている子どもの割合	81.1	75.8	85		将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合	76.1	75.3	81
													持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合	28.5	31.4	35
		心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります	毎日をとても楽しいと感じている子どもの割合	49	53.3	55	学校・家庭・地域が連携を深め、１２年間の学びや育ちをつなげます	学校が好きと感じている子どもの割合	81.8	86.6	85	学校・家庭・地域が連携を深め、12 年間の学びや育ちをつなげます	自分や周りのよさを認める子どもの割合	78.5	91.4	85
			学習に積極的に取り組む子どもの割合	65.8	70.2	70		学習に積極的に取り組む子どもの割合	69.4	75.5	75		地域や社会に関心をもつ子どもの割合	59.2	72.5	70
			過去１年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合	13.6	3.7	20							学習が将来、役立つと感じている子どもの割合	76.7	83.1	85
		人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合	59	63.5	62	地域ぐるみで子育ち・子育てを支えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合	65.6	61.3	74	子育ち・子育てを支える環境を整えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合	66.0	58.2	70
			子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合	45.1	45.6	48		子どもとふれあう行事に参加したことのある人の割合	44.8	46.3	51		子どもに対して理解のある大人の割合	66.2	66.8	94
													待機児童数	17	0	0

		まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします	製造品出荷額等	4923 億円	4479 億円	4923 億円	産業を活性化して、まちを元気にします					産業を活性化して、まちを元気にします	製造品出荷額等	5123.5	国で集計中	6227.7
			小売商店の店舗数	390 店舗	280 店舗	390 店舗		市内の法人数	898 社	919 社	930 社		市内の法人数	919 社	975 社	930 社
			組織化・法人化した農業者団体の数	0 団体	0 団体	1 団体										
			企業誘致制度を利用した件数	5 件	10 件	11 件										
		地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます	コミュニティ・ビジネスの事業数（試験的運営含む）	0 件	2 件	2 件										
			まつり、イベントの来場者数（年間）	128400 人	153135 人	131000 人		行政がかかわるイベントの来場者数	76000 人	84000 人	100000 人		行政がかかわるイベントの来場者数	86000 人	69000 人	100000 人
明日を生み出すエネルギー やる気を生かせるまちをつくろう		みんなでまちをきれいにします	日ごろから省エネや省資源など環境に配慮した生活をしている人の割合	79.2	81.3	85	みんなでまちをきれいにします	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合	79.9	76.4	85	みんなでまちをきれいにします	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合	77.9	80.8	85
			１人１日あたりの家庭系ごみ排出量	556g	545g	400g		１人１日あたりの家庭ごみ排出量	545g	534g	490g		１人１日あたりの家庭ごみ排出量	540	530	490
			環境美化推進員の人数	1791 人	2900 人	2100 人							市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことのある人の割合	60.4	58.6	71
		ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	長く住み続けたいと思う人の割合	76.9	81.2	82	ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	暮らしやすい環境が形成されていると感じている人の割合	66.5	58	72	自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）	18.4	38.6	38.6
			歩きやすい、運転しやすいと感じている人の割合	52.1	56	57							配水管の耐震化率	18.5	30.9	25
		自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます	公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合	25.6	27.7	30		公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合	27	29.6	32					
			公園をよく利用する人の割合	14.5	14.3	20							公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合	20.2	25.0	23
		安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます	地震の備えができていると感じている人の割合	22.3	24.7	25	安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	自分自身が災害（地震や風水害など）への備えができていると思う人の割合	32.5	36.9	45	安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	家具を固定している人の割合	59.1	64.5	70
													防災訓練に参加したことのある人の割合	61.9	64.2	72
			街頭犯罪発生件数（年間）	403 件	317 件	380 件以下		人口 1,000 人あたり犯罪発生件数	12.9 件	6.6 件	12 件以下		人口 1,000 人あたりの犯罪発生件数	6.9 件	4.5 件	6 件以下
			交通事故発生件数（年間）	220 件	229 件	190 件以下		人口 1,000 人あたり交通事故発生件数	5 件	4.5 件	4 件以下		人口 1,000 人あたり交通事故発生件数	3.9 件	2.5 件	3 件以下
	いつも笑顔で健やかにつながり 100 倍ひろげよう	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	ボランティアひろばセンター登録数（人口１万人あたり）	385 人	418 人	470 人	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	地域福祉に関するボランティア活動に参加したことがある人の割合	17.7	15.3	25	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合	29.7	28.4	36
								認知症サポーターの人数	2843 人	7932 人	5600 人					
			不安や悩み事を身近に相談できる人や場所があると思っている人の割合	76.9	75.9	80		地域包括支援センターを知っている人の割合	59.9	56.3	70		いきいき広場（相談窓口）を知っている人の割合	72.3	72.8	80
			地域で高齢者や障がい者等の見守りや生活の手助けをしている人の割合	26.5	22.4	30										

		一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	日常的に運動やスポーツを行っている人の割合	34.3	36	40	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	日常的に運動やスポーツを行っている人の割合	34.8	43.4	43	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合	63.4	64.0	71
			栄養や食生活に気をつけている人の割合	80.2	81.4	83										
			かかりつけ医を持っている人の割合	68.4	72.8	72		かかりつけ医を持っている人の割合	73.5	74	80		かかりつけ医を持っている人の割合	78.6	74.7	84

3．将来都市像に対する評価

高浜市長　吉岡　初浩

第 6 次総合計画はこれまでの総合計画とは一線を画し、市民の皆様と一緒に作成し推進する計画として 12 年前に策定しました。将来都市像「思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま」は、行政だけでなく、市民、団体、事業所や従業員、学生など、様々な主体を一つの家族と見立て、みんなで高浜市を創り上げていくことを目指して市民の皆様と決定しました。皆様とともに歩んできた計画も満了を迎え、改めてともに取り組んでいただいた本市に係るすべての皆様へ感謝を申し上げます。

基本計画の施策に対する市民意識調査結果は、各期で指標が異なるため 12 年間を通じての評価は難しいものがありますが、分野別に見ると前期基本計画策定時と比べ令和 4 年度には概ね向上する結果となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年計画延長を余儀なくされましたが、当初計画期間である令和 3 年度には、すべての目標で策定前の数値を上回る結果となりました。一方で感染症蔓延により市民意識調査がその時々の景気や社会情勢などに大きく左右されることを思い知りました。令和 5 年度からは第 7 次総合計画が始動しています。第 6 次と同様に市民の皆様と一緒に作成した第 7 次総合計画の将来都市像では、第 6 次の将来都市像にある「つながり」や「大家族たかはま」を引き継ぐ結果となりました。第 6 次の計画で大切にしてきたことがしっかりと市民の皆様の中に息づいていることを確認し、これこそが計画の成果の賜物であると考えます。第 7 次総合計画においても、本市の強みを活かし、市民の皆様との協働で市政を推進してまいります。

第６次総合計画推進会議
中川　幾郎　会長

総合計画は住民自治と団体自治の相互の力が両輪となって推進されるもので第 6 次の将来都市像はまさにそれを表現している。高浜市のまちづくり指標は、市民からの提案もあって決定していることから重視するべきものではあるが、少子高齢化や若年層の貧困化等により、全国的に住民自治の弱体化が顕在化しており、これは高浜市においても例外ではないと考える。市民の意識に基づく指標には、社会情勢等の外的要因も影響を受け、自治体の内部努力だけでは如何ともしがたいところもあり、政策を評価するにはそれらを差し引いた評価が必要である。しかし、国策として対応すべきことだと、いつまでも手をこまねき放置しておくと住民自治を今の水準で維持するどころか、弱体化に歯止めがかからなくなってしまう。自治体としても危機感をもち、高齢化や少子化に対処する手を打っていかなければならない。住民自治には、個人自治、家庭内自治、近隣自治、地域自治と段階的な自治があり、段階に応じた課題を見出して効果的な施策を打ち出すべきである。これまで高浜市の地域自治を先導してきた方々の活動期間が社会的潮流を受けて長引き、次の世代をどうしたら引っ張ってこられるかが課題となっている。これには地域自治よりも小さな自治への働きかけが重要になると考える。忙しい共働き世代、母子父子家庭、一人暮らしの方々等、これまでまちづくりに関わりの薄かった世代をターゲットにして施策を打ち出し、持てるノウハウで社会に貢献することが自己実現の楽しさに結びつくことに気付いてもらい、まちづくりへの参加者を増やしていくべきだろう。市民文化をリニューアルし、住民自治の転換を進める時期が迫っていると考察する。

４．12 年間の市民意識調査結果の分析、課題と第７次総合計画の関連性

協働推進

前期は上昇、中期は低下、後期は令和 3 年度までは横ばいであったが、延長した令和４年度には低下することとなった。平成 22 年度の計画策定前の二つの指標はいずれも 40%台であったものの、中期、後期と 50～60%台が定着した。まちづくり協議会を中心に協働のまちづくりを推進してきた効果があったものと分析をし、評価できるものと感じている。

しかしながら、昨今のコロナを含む社会状況下において、連携・協力してきたまちづくりが停滞する中で、特段の解決策を講じることができなかったことが、最終年での低下の要因であると分析している。

コロナ禍を経て、社会のつながりに対する市民の皆様の考え方が変わってきた。時代の変化に合わせて、まちづくりのあり方も変えていかないといけないと感じている。

みんなで目指すまちづくり指標の結果では、「市の情報発信に満足している人の割合」は後期計画当初より上昇しているが、目標値を達成できていない。情報発信は市政全体へ影響を及ぼす可能性があるため、第７次総合計画において個別目標を立ち上げ重点的に取り組んでいく。また、「地域活動に参加したことがある人の割合」が横ばいなのは、まちづくりへの参加者の固定化が要因とも考えられる。新たなまちづくり人材、特に次代を担う若い人材を育成し、まちづくりへの活動を応援することで、人材が循環する仕組みを第７次総合計画で取り組んでいきたい。

財政運営

みんなで目指すまちづくり指標の結果によると、前期・中期・後期の各計画期間において、増減をしながらも目標値には届かなかった。将来を見据えた財政運営のため、どのような取組みを行うのか明確にし、より具体的に分かりやすく、また広く情報発信を行っていく必要がある。

将来を見据えた持続可能な財政運営を行うため、第 7 次総合計画と同様バックキャスティングの考え方に基づき、将来の目指すべき姿を実現するために、限られた財源の中で事業の選択と集中を図るとともに、財政運営に関する取組みを様々な媒体、様々な手法で情報発信を行い、その内容への理解を得ながら、共創でのまちづくりに繋げる。

生涯学習・文化・スポーツ

まちづくりの原動力となる「人づくり」は、市民が何かきっかけをつかまなければ進まない。第 6 次総合計画の 12 年間は、そのきっかけを整える期間であったと考えている。調査の数値だけでは読み取ることのできない、文化・スポーツ全般的なソフト・ハード面の整備ができたため、今後の第 7 次総合計画でそれらを活用しながら、「人づくり」を進めていく。

第 7 次総合計画の目標の一つ「みんなで学び・高め合い　高浜の未来を育もう」を達成するには、「第 3 次生涯学習基本構想・基本計画」との連動が必須となる。市民個々が意欲的に学び、そこで培った学びを広げて、やがてまちづくりへ直接的・間接的に参画するという流れを意識しながら、まずは学びのきっかけをどのように提供し、流れを作るのかが大きな課題であり、やるべきことと考えている。

学校教育

「学校・家庭・地域が連携し、子どもの 12 年間（4 歳～15 歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う」について、令和 2 年度より数値が下がっているのは、新型コロナウイルス感染症の影響で、異校種間連携事業が実施できなかったため、12 年間の学びや育ちを育む取組が十分に実施できなかったからだと考える。しかし、計画策定前に比べると学校教育の目指すところが市民に理解されてきていると分析できる。それは「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知するカレンダーの配付などの取組を継続してきた成果と考える。

みんなで目指すまちづくり指標の「学習が将来、役立つと感じている子どもの割合」が目標値に達成できなかったのは、予想外の新型コロナウイルス感染症において学びに制限が生じ、主体的・対話的で深い学びが実現しにくかったことが一要因であると考える。第 7 次総合計画においては、どのような状況になろうとも自分の人生を自分らしく幸せに生きるために学び続ける力を育むことに取り組む。そのため、第 6 次において成果のあった取組の継続と子どもの実態から見出した課題に対する取組や社会の変化に対応した取組を実施していく。

子育ち・子育て

「子育ち・子育てを支える環境が整っているまちだと思う」について、肯定的な意識を持っている人の割合が、令和元年をピークに減少傾向にある。保育所等による待機児童が０になったにも関わらず、特に令和４年度の減少が著しい。

みんなで目指すまちづくり指標の「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」とも連動しており、コロナ禍により、人との繋がりが希薄化し、子育てをする上での孤立が進み、子育てに対する悩みが増大していると考えられる。

子育てに対する悩みや相談をするうえでの「きっかけ」や、「受け皿」を ICT 等を活用して整備すること、また、より多くの市民が、子育てに参加できる仕組みを構築するための土台を整備する。また、外国籍の市民の孤立化等についても多言語対応により、解消につなげる。

産業

「まちの成長を支えるエンジンとして、産業が元気になっている」及び「地域に根ざした新たなビジネスの芽を育めている」に対して「そう思う」と回答した市民の割合は、平成 22 年度から平成 25 年度にかけていずれも大きく上昇した。平成 25 年度以降「産業が活性化して、まちが元気になっている」に対しては、「そう思う」と回答した市民の割合は、令和 4 年度まで横ばい傾向が続いた。

前期基本計画当初、「まちの成長を支えるエンジンとして、産業が元気なまちだと思う」と感じる市民の割合は 17.7%であったが、後期基本計画期間では「産業が活性化して、まちが元気になっている」と感じる市民の割合が最大で 28.0%まで増加した。主な要因としては、愛知県と高浜市が共同で事業実施した工業団地「高浜豊田地区」が平成 29 年に造成工事に着手し、令和 3 年時点で 2 社の工場が操業を開始したことや、事業者向けの補助制度により製造に関する法人数が増加していることから、市民に見える形で産業活性化の取組みがなされた結果であると分析する。

今後、地域の産業を活性化させていくためには、ブランド化、伝統産業としての価値の創出とともに、効果的な PR が必要である。

「産業が活性化して、まちが元気になっている」と感じる市民の割合は、平成 29 年度時点の 21.0%から令和 3 年度時点の 28.0%まで上昇したものの、令和 4 年度時点で 24.2%に低下した。

同様の傾向として、みんなで目指すまちづくり指標の市内の法人数は、平成 29 年度時点の 919 社から令和 3 年度時点で 984 社まで増加したものの、令和 4 年度時点で 975 社に減少した。

このことから、法人数の増減が、「産業が活性化して、まちが元気になっている」と感じるか否かに影響していると考えられる。第 7 次総合計画に掲げた「企業が進出・操業しやすい環境の整備等、産業の活性化につながる取組みを検討します。」に基づき、工場等新設・増設促進奨励措置などの支援環境や、高浜市都市計画マスタープランの「将来土地利用方針図」に描いた都市環境の整備に向け、継続して取組んでいく。

また、市内の商業・工業の事業所数が横ばいとなっていることや、地場産業である三州瓦の販売枚数は減少傾向であることを踏まえ、第 7 次総合計画では、商工会と連携した経営支援等の必要性や、瓦業界と連携し、災害による風評被害の払しょくやブランド化等の必要性を課題として挙げている。これを踏まえて、商工会と連携し創業支援や経営支援等に取り組むことや瓦に対する風評被害の払しょくや商品開発、ブランド化等、三州瓦の優位性やデザイン性をＰＲするとともに、普及を支援することとしている。

環境

みんなで目指すまちづくり指標の結果によると、省資源や省エネについての関心度は計画策定前と比べると高くなっていると分析できる。また、排出されるごみ量もわずかながら減少が見えることからも、市民意識は高まっているといえる。

引き続きごみの減量化再資源化を強化していくとともに、カーボンニュートラルを推進するため、市民の行動につながる施策に取り組んでいくこととする。

都市基盤

計画的に修繕・改修工事を実施したことで、調和のとれた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う人の割合が過半数をしめた。

道路、公園利用者が安心・安全に利用できるように、舗装修繕、公園施設修繕を進める必要がある。

利用者に対し、常時はもちろんのこと災害時にも安心で安全な水道水を安定して提供できるよう、引き続き管路の耐震化と、配水場の老朽施設の更新を進める必要がある。

防災・防犯

12年間を通して、防災・防犯対策が進められていると感じる市民の割合は増加傾向にあったが、直近の調査では減少に転じ、調査開始当初の数値を下回っている。しかしながら、市内の犯罪発生件数と交通事故発生件数は僅かずつだが着実に減少しており、取組みの成果は出ていると考える。各種活動を継続するほか、市の取組みをさらに広くアピールし啓発を続けることによって、市民が防災・防犯対策が進められていると目に視えて実感できるようにしたい。

市民一人ひとりが災害に対して備える「自助」の重要性を認識し、災害時に行動できるよう「マイ・タイムライン（避難行動計画）」の作成を促す。また、防災・防犯等に関する情報周知徹底のため、防災メールへの登録や、愛知県警の防犯アプリ「アイチポリス」の登録を積極的に呼びかけていきたい。

福祉

6割前後の市民に「高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちである」と認識されているが、若者に比べて、60歳以上の高齢者の評価が低くなっている。今後は、高齢者の皆さんが役割と生きがいをもって、社会の醸成に注力する必要がある。

第7次総合計画では、福祉の目標を「その人らしく安心して生活できる地域共生のまちづくりを進めます」と定め、身近に相談できる人や場所を充実させつつ、地域からの情報提供を基に、新たな福祉課題を発掘するなど、通常の枠を超えて支援を届ける重層的支援体制の整備に取り組む。

健康

前期・中期・後期の各計画期間の年度毎で増減をしていますが、肯定的な意見の推移では、どの年度においても肯定的な意見が当初の数値を上回っている。

健康づくりに関する教室や保健指導に加え、子どものうちから生活習慣病などの予防について伝えていく活動を通じて、市民が主体的に認知症や生活習慣病の予防に取り組めるよう支援を継続する必要がある。また、昨今メンタルヘルスという言葉が注目されるようになり、体だけでなく心の健康についても関心が高まっているので、今後力をいれて取り組んでいく。

第7次総合計画の目標の一つ、「心も体も元気、毎日を笑顔で暮らそう」の目標は「健康」とし、一人ひとりと地域全体の健康づくりを応援することを掲げている。

子どもの頃の生活習慣は、成人期の生活習慣にも影響するため、高齢になってもいきいきと健康で自立した生活を送るためには、若いうちから自分自身の健康状態に関心を持ち、生活習慣を見直す、振り返ることが重要となる。

乳幼児や、成人・老人など、幅広い年齢層を対象にした健康診断の拡充や集団での健康づくり教室や個別の電話相談、保健指導を通して、一人ひとりに合った「心と体」両方の健康づくりを支援し、「健康は守るもの」から「健康はつくるもの」へと発想を転換してもらい、健康づくりに主体的に取り組んでいただけるよう事業を進めていく。

4

おわりに

第６次総合計画の進行管理体制

■ 総合計画推進会議の役割

〔所掌事務〕　（「第６次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）

１）総合計画の進行管理に関する事項
２）その他総合計画の推進に関する事項

→毎年度の取組みを振り返り、総合計画に掲げる目標達成に向けて効果的な取組みが行われているかを委員と一緒に点検・確認し、より有効な手段等について建設的な意見をいただく。

具体的には・・・
・「アクションプラン」や「部長の実行宣言」など年度初めに行政から発行される資料
・市民意識調査など現状把握施策
などの資料を参考にしながら、行政がまとめた施策評価（内部評価）シートを基に、前年度の取組みから見えてきた成果・課題、その成果・課題を踏まえた今後の取組み内容や方向性について、行政から説明し、委員から提言をいただく形で進行管理を進めてきた。

〔開催回数等（後期基本計画）〕

	開催回数
平成３１年度	５回
令和２年度	４回
令和３年度	３回
令和４年度	３回
合計	１５回

■ 第６次高浜市総合計画　進行管理体制

オブザーバー参加

議決

議会

市民意見の吸い上げ

議案上程

第６次高浜市総合計画推進会議

〔所掌事務〕
（「第６次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）
１）総合計画の進行管理に関する事項
２）その他総合計画の推進に関する事項

具体的には・・・

✧ 総合計画に掲げた施策について、行政がとりまとめた「施策評価（内部評価）」の内容を点検・確認し、目標の達成に向けた意見・アイデア等を述べる。

＜点検・確認の主な視点＞
①取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。
②「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果分析や課題把握は的確か。
③課題の解決に向けた今後の取組み（案）は、目標達成に資する内容となっているか。

✧ 「点検・確認結果」をとりまとめ、市長へ提出する。
✧ 推進会議が提出した「点検・確認結果」が、施策・予算等へ反映されているかを確認し、必要に応じて意見を述べる。
✧ 推進会議の進め方について協議する。
✧ 推進会議のあり方について検討する。

〔構成〕１１名
・中川幾郎氏（帝塚山大学大学院名誉教授）
・市民（７名）
・副市長

〔開催頻度〕年４回程度

☆意見を述べる

☆点検・確認結果を報告

キャッチボール

☆検討資料の提示

☆求めに応じて関係職員が出席

行政

市長

【部長会】
〔役割〕
✧ 総合計画の進行管理に向けた総合調整を行う。
✧ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の調整を行う。

資料を提出

職員へ指示

【各担当グループ】
〔役割〕
✧ 総合計画に掲げた目標の達成に向けて、施策・事業を推進する。
✧ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の作成を行う。
✧ 推進会議から示された意見等について、実現可能かどうかを検討し、施策・予算等へ反映する。

【事務局】（総合政策グループ）
〔役割〕
✧ 総合計画の進行管理事務、推進会議の運営を行う。
✧ 推進会議の求めに応じた資料等の取りまとめを行う。
✧ 進行管理にあたって必要な各種データ・情報の収集を行う。